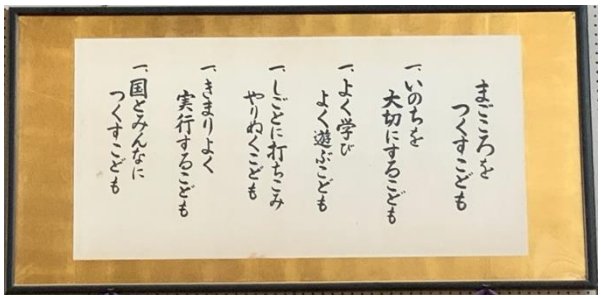
Ⅰ　学校経営における健康づくりについて

１　学校経営方針と健康づくり

（１）学校教育目標及び教育計画への健康づくりの位置づけ

本校では，約 60 年にわたり健康づくりに取り組んでいる。その間，常に教育活動の基盤として健康づくりを位置づけ，各教科，特別活動，道徳，総合的な学習の時間などの研究にも先進的に取り組んできた。



【図１　校訓「まごころをつくすこども」】

昭和 44 年に制定された校訓「まごころをつくすこども」（図１）に則り，学校教育目標を「熊本城に象徴される質実剛健の風格を基調とし，児童の徳・知・体の調和的発展に努め，よりよい社会の担い手となる人材を育成する」とし，徳・知・体の調和のとれた全人教育を目指してきた（資料１－１「Ｒ２学校教育目標及び教育計画」，資料１－２「Ｒ３学校教育目標及び教育計画」）。

しかし，昨年３月新型コロナウイルスの感染拡大防止の為，全国一斉の臨時休業となった。３か月に及ぶ長期休業は，学習保証の問題だけでなく，子どもたちの生活習慣の乱れ，ストレス等様々な問題を引き起こすこととなった。

本校においても例外ではない。長期にわたり健康づくりの実践を続けてきたものの，やはり規則正しい生活を保つことができない状況が見られた。食事・運動・睡眠など，自ら健康生活に配慮し，自分の生活をコントロールすることが難しかったのである。

これは，本校の実践を見直す一つのきっかけとなった。児童が，いかなる状況に遭遇しても，自らの力で心身ともに健康に生き抜いて行く力を育んでいくことが重要である。そのためには，児童が自ら考え，判断し，行動する健康づくり，よりよい生活に向けて変わり続ける健康づくりを目指していかなければならない。

そこで，健康づくりの研究テーマを「よりよい生活に向けて変わり続けるすこやかな城東っ子の育成」とした。生涯にわたって健康で安全な生活を維持することのできる資質・能力を育むこと，さらには他者の健康づくりにも貢献できるようにすることを目指すものである。

これまでの実践を礎として，研究テーマに迫るべく，保健・体育・安全・食育の４領域での実践を重ねることにした。次頁に，「健康づくり構想図」を示す（図２）。なお，図２の構想図では，児童主体の活動を□，家庭・地域との連携した活動を▽とした。

〈健康づくり目標〉　自尊感情の向上と健康的な生活を送る実践意欲や実践力の定着
〈本年度健康教育テーマ〉よりよい生活に向けて変わり続ける　すこやかな城東っ子の育成

学校保健委員会「すこやかサミット」の充実

全ての教育活動

〈各教科等〉
体の健康や人との関わり，自然環境との関わりなどの理解を深め，健康的な生活を送る態度を育てる。

〈総合的な学習の時間〉けんこうタイム
生命の尊さを知り，お互いの健康を増進し，安全と幸福を守り合う態度を育てる。

3年	4年	5年	6年
20時間	50時間	50時間	50時間

〈特別活動〉
様々な集団活動に自主的，実践的に取り組み，互いのよさや可能性を発揮しながら，集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに，自己実現を図ろうとする態度を育てる。

家庭・地域との連携

4領域における具体的実践事項

保　健	体　育	安　全	食　育
命を大切にするこども	命を大切にするこども よく学びよく遊ぶこども	命を大切にするこども きまりよく実行するこども	命を大切にするこども
励まし合い支え合い，自ら健康的な生活を送る態度を育てる。	周囲と関わりながら体力を伸ばす意欲を育てる。	危険を予測し，適切に判断して行動する態度を育てる。	食べる楽しさを実感させ，食への関心を高める。
○保健指導・保健活動の充実 ○健康板・心と体の健康観察の強化 □朝の活動（目の体操，室内運動，エンカウンターエクササイズ） ○歯科保健の推進 □全校歯みがき □歯みがきツアー ○歯科検診及び健康相談 ▽親子歯みがき □縦割り歯みがき ▽個別歯科指導（歯科技術専門学校生） ○保健教育の工夫（他教科等との関連，指導形態，心の健康・姿勢指導・情報モラル教育の推進等） □メディアに関する城東ルール □保健委員会の推進活動 □総合的な学習の時間 ○心と体の健康相談	○教科体育の充実（単元マップ・ひごっこ体操・青空サーキット） □体力テストの活用 ○わんぱくロード・わんぱくカード・わんぱくコーナー ○生活体育の充実 □朝の活動「青空活動」 □縦割り遊び □昼休みの全校遊び「青空タイム」 ○放課後，休日の運動場開放 □体育（青空）委員会の推進活動 ▽家庭との連携（親子はりきり表） □総合的な学習の時間 □運動場・遊具の安全な使用	○各教科等における安全教育の充実 ○日常生活につなぐ定例避難訓練（毎月１回） □児童とともに行う安全点検 ○校内危険箇所の明示 □保健委員会，青空委員会，生活委員会の推進活動 ○校区安全マップの活用 ○交通安全指導 □▽地域と連携した地区児童会，集団下校，通学路点検 ○着衣泳法指導 ▽ＰＴＡ心肺蘇生法研修	○各教科等における食育の充実 □異学年による交流給食（縦割り給食，お誕生給食） ○ランチルームの充実・活用活性化 □校産校消の推進 □児童給食委員会の推進活動（もりもりロード，給食集会） ▽親子給食試食会 □総合的な学習の時間 ○給食前の衛生チェック ○食物アレルギーの調査及び複数での対応 ○肥満や偏食の個別相談（健康相談）

全職員による共通実践

児童主体の健康づくり（課題把握→企画・運営→実践→成長の自覚）

【図２　健康づくり構想図】

（２）健康づくりをよりよく実践するための配慮事項

校内における健康づくりをよりよく実践するために，以下の３点について配慮した。

①　児童主体の健康づくり

児童が主体的に健康づくりに取り組むためには，そのベースとして，自尊感情を高め，「自分を大切にし，夢や希望を叶えるために健康でありたい」という思いをもたせることが不可欠である。また，自分の役割に対して責任をもって取り組むことで，何か（誰か）の役に立ち貢献しているという自己有用感がもてるようにすることも重要である。

そこで，すべての教育活動において自尊感情や自己有用感を育てるとともに確かな健康観を育てることを基盤に置いた。また，各教科等における学習の充実はもとより，教科等間の相互の関連を図ることによって，それぞれ単独では生み出し得ない効果を得ることができるよう，健康教育年間指導計画を作成した（資料５）。

また，それぞれの教育活動においては，児童が自ら課題を見つけ，主体的に解決方法を考え実践できる場面の設定や学習過程を工夫している。

②　全職員による共通実践

校内研究との関連を強め，全職員で確実な共通実践ができるようにしている。校内研究では，急激に変化する予測困難な時代を生きていく子どもたちに，周囲の人と協働し，変わり続ける力を育てることを目指し，研究テーマを「協働し，変わり続ける子どもの育成」としている。健康教育でも同様に，困難に遭遇してもなお健康で安全な生活を送ることができるようにすることを目指しているため，健康教育テーマを「よりよい生活に向けて変わり続ける　すこやかな城東っ子の育成」とした。

また，児童が見通しをもちながら主体的に学び合うことができるよう，年度始めの校内研修や職員会議で，内容や役割等の共通理解を図り，組織的に活動推進できる協力体制の確立を図っている。

③　家庭・地域との連携

児童の心身の健康づくりを支援していくためには，家庭や地域の積極的な参加・協力を推進することが極めて重要である。そのため，地域と共にある学校として，学校便り・保健便り・学級便り・学級懇談会などによる情報発信に努めている。昨年度からは，新型コロナウイルスの感染拡大の影響から，以前のように来校してもらうことは難しいため，ホームページやタブレット端末を活用し，連携方法を工夫している。

２　健康づくりに関する計画

（１）学校保健計画（教育・管理）作成に当たっての配慮事項

学校保健安全法第５条に基づき，児童の健康に関する実態と課題を踏まえて，「保健管理に関する事項」（心身・生活の管理，環境の管理），「保健教育に関する事項」（教科等，特別活動，個別・日常指導），「組織活動に関する事項」の項目で構成している。

昨年度は，新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じることが必須であった。保健管理に留まらず，保健教育・組織活動とも関連付けて，感染対策を計画し，実行した。

また，臨時休業やタブレット端末の配付により，様々な児童の生活の変化があった。その中でも特にメディアの接触時間が増加しているという実態があり，生活リズムの乱れや睡眠不足，運動不足，視力の低下，ストレス等の健康課題の深刻化が心配された。そこで，メディアの使用を含めた生活習慣の見直しに重点を置き，学校・家庭・地域で継続的に連携して取り組んでいくため，保健管理・保健教育・組織活動を関連付けて計画を作成した（資料２－１「Ｒ２学校保健計画」）。

本年度も引き続き生活習慣の見直しと改善に重点を置いているが，その中でも児童主体の健康づくりの活動を明確に計画に位置付けるようにした（資料２－２「Ｒ３学校保健計画」）。

（２）学校保健計画を実践するための具体的手立て

学校保健計画を実践するため，以下の具体的手立てをとっている。

・保健管理・保健教育・組織活動を有機的に関連付け，その成果を上げるために全職員の協働体制を確立する。そのために，各分掌や各学年等との連携を深め，実践ごとにねらいや活動の流れ，対象者，役割分担などを明確にしながら共通理解を図る。

・新型コロナウイルス感染症対策については，教師が行う保健管理に留まらず，発達段階に応じて児童が自分の健康管理をできることを目指し，保健教育や組織活動を関連させて実施する。また実施にあたっては，学校三師に助言を得るようにする。

・学校・家庭・地域を相互に結ぶ健康づくりの中心として，学校保健委員会「すこやかサミット」（以下すこやかサミット）を年２回実施する。また，家庭生活でも学校での取組が生かされるよう，親子で話し合う場面の設定を工夫する。その際，児童主体の取組とすることで，家庭の協力意欲を高めるようにする。

（３）学校安全計画（教育・管理）作成に当たっての配慮事項

学校保健安全法第 27 条に基づき，児童や地域の実態と課題を踏まえて，

「安全教育に関する事項」「安全管理に関する事項」「安全に関する組織活動」「研修」で構成している。

校区には，繁華街があり，交通量も多く，車両事故や声掛け事案等も発生している。こうした実態を踏まえ，生活の中で想定される様々な場面で自ら危険を予測し回避することができる力を育むため，思考判断を大切にした安全学習や避難訓練の事前事後指導の充実等に重点を置いて作成している（資料３－１「Ｒ２学校安全計画」）。

本年度は，昨年度，校内の同じ場所でのけがが頻発しているという課題があったことから，学校生活の中でも危険回避能力を高めていけるよう，安全管理・安全教育をより一層関連付けて計画している（資料３－２「Ｒ３学校安全計画」）。

さらに，昨年度から新型コロナウイルス感染症対策にも考慮している。

（４）学校安全計画を実践するための具体的手立て

学校安全計画を実践するため，以下の具体的手立てをとっている。

・定例の避難訓練を，災害時のあらゆる場面を想定した訓練とし，起こりうる場面において，どのように判断し行動すればよいか児童自身が考えられるようにする。そのために，全職員が高い危機意識をもって児童への指導ができるよう，年度始めに全職員で共通理解を図る。

・校内での同じ場所でのけがを減らすため，児童が主体となって取り組む場を設ける。

・新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ，安全に登下校したり休み時間を過ごしたりする必要があるため，児童が日常場面の中で，自ら判断し行動できる力を育成するための安全管理・安全教育を実施する（図３）。

【図３　地区児童会で登下校時の安全について話し合う様子】

（５）食に関する指導の計画（教育・管理）作成に当たっての配慮事項

食育基本法第２条で謳われている「国民の心身の健康の増進と豊かな人間形成」という食育の目的に鑑み，児童の食習慣の実態や課題を踏まえて，食に関する計画を作成している。「教科等・総合的な学習の時間や特別活動との関連」,「献立作成の配慮」,「個別相談指導・対応，家庭・地域との連携」という項目で構成している。

例年，楽しい雰囲気での会食を推進するため「縦割り班給食」「お誕生給食」「親子給食試食会」等を行っているが，いずれもクラスの垣根を越えた複数人での会食であるため，昨年度から新型コロナウイルス感染防止の観点

から中止し，日常の給食の時間の指導では衛生面の強化を図っている。

できなくなった活動もあるものの，昨年度からは栄養教諭と連携し，食事の重要性や心身の健康，食べ物を大切にする感謝の心，食事のマナーなどの社会性を身に付けることを目指して，食に関する指導を計画・実施している（資料４－１「Ｒ２食に関する年間指導計画（６年生)」)。

加えて本年度は，食に関する健康課題を有する児童やその保護者に対し個別的な相談指導を計画している（資料４－２「Ｒ３食に関する年間指導計画（６年生)」)。

また，給食委員会や，総合的な学習の時間「けんこうタイム」(以下けんこうタイム）で食習慣に関連したテーマを扱う４～６年生を中心として，児童主体の活動を計画している。

（６）食に関する指導の計画を実践するための具体的手立て

食に関する指導の計画を実践するため以下の手立てをとっている。

・衛生的な給食指導を行うため，配膳までの流れを教職員・児童で共通理解して進める。

・栄養教諭に協力を得た日常的な食育指導の実施の他，栄養教諭・養護教諭の保健教育への参画（図４）によって，児童の食への興味関心を高めるとともに，食事の重要性や食べ物に感謝する心の育成に努める。

【図４　栄養教諭・養護教諭が４年保健授業に参画する様子】

・健康手帳対象者のうち希望する家庭を中心に，栄養教諭と連携した健康相談を長期休業前に設定する（後述 p. 11)。

・給食委員会の児童が自ら食に関する学校全体の健康課題を見出し，その解決に向けた取組を推進する。

３　健康づくりの推進体制

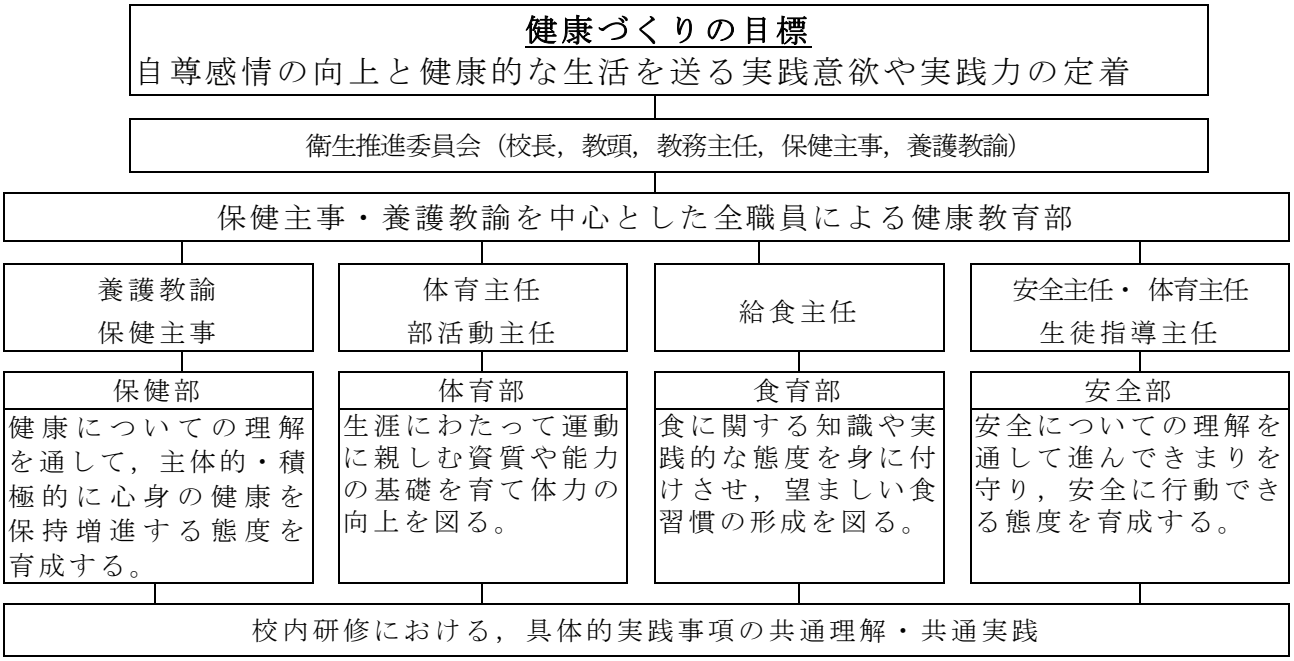
（１）推進組織の状況

校長のリーダーシップのもと，保健主事と養護教諭がリードしながら，以下の「健康づくり推進組織体制」を組んでいる（次頁図５)。

月に１回程度，全職員で「健康教育部会」を開き，協議する。健康づくりの中心となるけんこうタイムについては，それを実施する３～６年担任と保健主事，養護教諭で進め方や内容等を事前に話し合った上で，健康教育部会で協議している。

また，「保健」「体育」「食育」「安全」の各部の活動については，各部の主

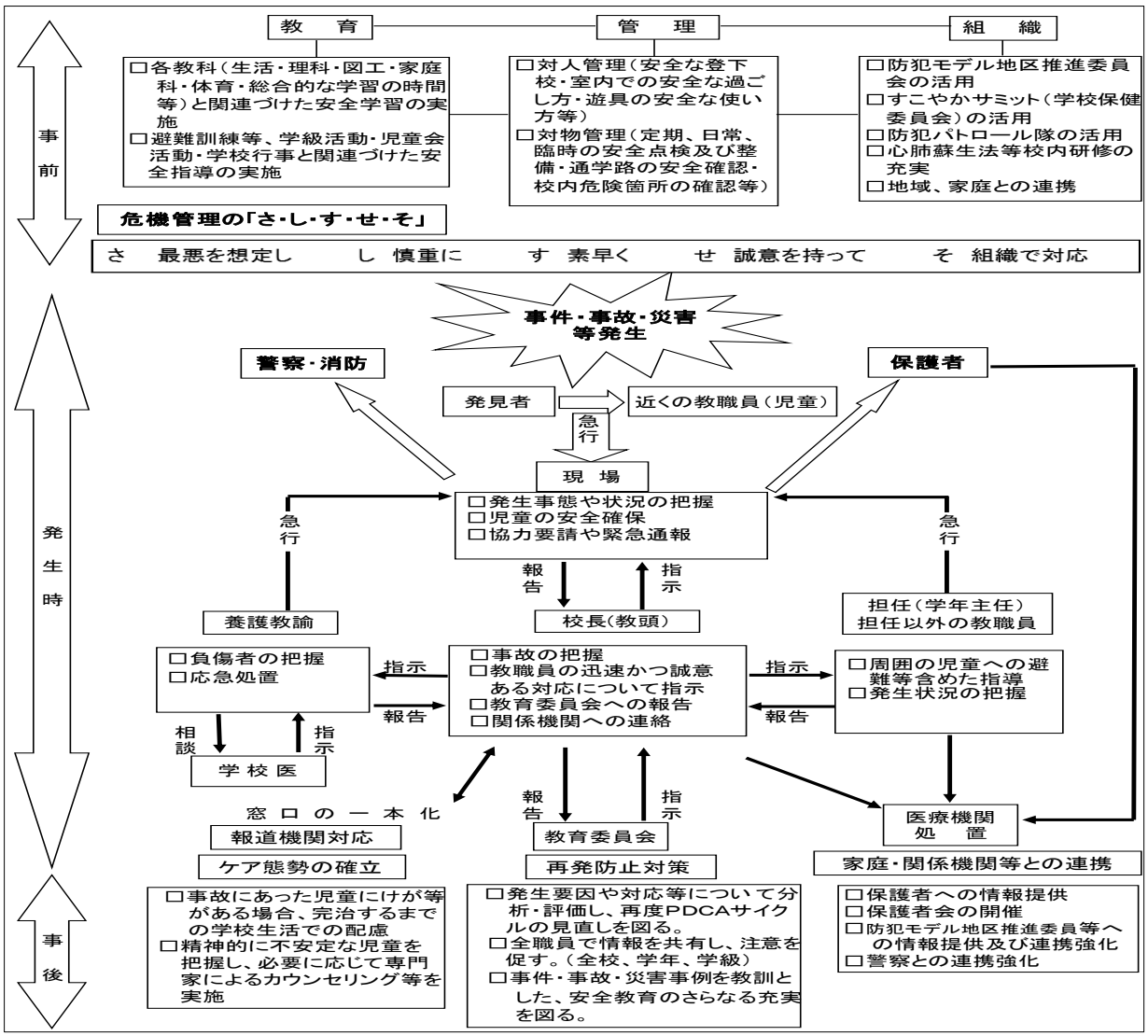
任を中心に推進体制を組織しており，各活動の在り方や方向性，内容の検討などを行っている。



【図５　健康づくり推進組織体制】

さらに，日常的な情報交換はもちろんのこと，毎週水曜日の職員夕会では，「児童を見つめる会」を設けている。この会は「生徒指導」「特別支援教育」「心身の健康状態」などの視点から全職員による情報交換や共通理解を得る場である。本年度からは，共通理解事項と別に，焦点を当てる児童を一人絞った児童理解の時間を設けている。対象の児童に対して各方面からの見取りを出し合い，その後の一週間，全職員で一貫した支援や声掛けを実践，翌週には振り返りを行い，効果的な支援や声掛けの在り方を確認し，その後の継続的な支援につなげるよう，体制を整えている。

加えて，近年，大きな災害が毎年どこかで起きており，自然災害のみならず，犯罪，交通事故など様々な危険や危機が潜んでいる。そのような中にあって，学校は児童の生命を守る，安心・安全な場所でなくてはならない。日頃から一人一人の児童の様子を複数の目で観察するとともに，安全点検や校区安全マップ，危機管理体制（次頁図６）を整備し，早期発見，迅速・的確な対処に努めている。昨年度からは新型コロナウイルス感染症の対応についても，危機管理体制を検討し，全職員で共通理解を図っている。



【図６　危機管理体制】

（２）健康相談・保健指導の活動状況

①　健康相談の活動状況

健康相談と保健指導については明確に分けられるものではないことから，相互に関連づけながら展開している。児童や保護者からの相談希望，健康観察や保健室での対応等から健康相談が必要と判断された児童に対して，心身両面の健康問題の背景（問題の本質）にあるものを的確に捉え，面談やカウンセリング等を通して支援するように努めている。

また，児童の心と体の悩みや痛みに適切に応えられる支援・指導を行うために，養護教諭，学級担任，学校三師の校内組織を整え，保護者との連絡を密にしながら，スクールカウンセラー（以下ＳＣ），スクールソーシャルワーカー（以下ＳＳＷ）や子ども発達支援センター等地域の関係機関とも連携し，児童や保護者のニーズにあった個別的な対応を行っている。

＜健康相談及び保健指導のプロセス＞

対象者の把握（身体的疾患や心因的症状等の見極め，相談等の必要性の判断，希望の有無等）→ 課題の背景の把握 → 支援方針・支援方法の検討と実施 → 児童の状況確認及び支援方針・支援方法等の再検討と実施

ア　養護教諭が行う健康相談

児童の健康に関して専門的な観点から行う。児童は，心の問題を言葉に表すことが難しいため身体症状として現れやすい。養護教諭は保健室来室時に，心身両面からの健康問題を発見しやすい立場にある。そのため，児童の示すいつもと違う表情や行動の些細な変化をいち早く察知し，まず，訴えや思いを十分に聴く姿勢に心がけた支援を行っている。昨年度からは新型コロナウイルス感染症対策の視点からも丁寧な観察と問診を行っている。

来室した児童の対応に際しては，全児童分を整備している来室記録（個人カルテ）に，知り得た情報を書き込んでいる。以前に来室した時の様子を振り返りながら対応することで，児童一人一人の状態や変容を心身両面から捉えられるようにしている。来室記録を保健日誌にまとめ，学校全体のけがや体調不良の状況の傾向を把握することで，健康相談のみならず，安全面の改善や保健教育にもつなげている。

さらに，健康相談・保健指導の必要性の判断，関係職員をはじめ保護者やＳＣ，医療機関，地域の関係機関との連携におけるコーディネーターの役割も担っている。

また，健康観察のポイントや保健室はいつでもだれでも相談できることは児童，保護者，教職員に保健だより等を通して周知している。

イ　学級担任が行う健康相談

身体的不調者のみならず，不登校，虐待，人間関係などの問題を早期に発見することができるよう，多角的な視点からの健康観察（朝の健康観察，授業中や休み時間，給食，放課後など学校生活全般において）を十分に行い，児童の変化を丁寧に把握するようにしている。

【図７　オンラインでの健康観察の様子】

昨年度は臨時休業中もオンラインやタブレット端末を活用した健康観察を行い（図７，８），希望する児童や教師側が気になる児童については個別の面談等も行った。

【図８　タブレット端末での健康観察カード】

このように普段から児童が相談しや

すい関係を築きながら情報を収集し，対応すべき児童の心身の健康問題については，担任が一人で抱え込むことなく，養護教諭をはじめとする関係者や保護者と連携し，情報の共有を図り，早い段階から組織的に対応している。

ウ　学校医・学校歯科医・学校薬剤師が行う健康相談

受診の必要性についての判断，疾病予防，治療等の相談及び学校と地域の医療機関等とのつなぎ役など，主に医療的な観点から行っている。近年，子どもの抱える健康問題が多様化する中，特にメンタルヘルス，アレルギー疾患，口腔疾患などの新たな健康課題において専門知識に基づいた効果的な指導を行っている。

エ　ＳＣが行う健康相談

児童や保護者に対する相談や，教職員へのコンサルテーションの他，災害や事故などの緊急事態における心のケアに努めている。

昨年度の長期の臨時休業は児童の心身に大きな影響を与えた。臨時休業を境に生活リズムがくずれたり，学習や友人関係に不安を抱いたりする児童がみられている。そのため，ＳＣと養護教諭や学級担任等との連携を密にし，心身面の変化（表情や顔色，頭痛等の症状，学習意欲や眠気），環境面（家族の状況），生育状況（既往症，過去のトラウマ体験の有無）など，様々な視点から児童を見て問題の早期発見・早期対応に努めている。

また，家庭で不安が表出する児童もいるため，「心と体の健康観察」に２月に１回のペースで親子で取り組んでいる。結果はＳＣと共有し，助言を得ている。カウンセリングへの希望については，「子どもだけ」「保護者だけ」「親子一緒に」「学校に任せる」等の多様な選択肢を設け，一人一人のニーズに応じた対応を心がけており，希望者にはＳＣによるカウンセリングを行っている。

②　保健指導の活動状況

適切な保健指導につなげるため，健康問題を把握するよう心がけている。そのためには，常に児童と接している教職員の見取りが重要であり，日常的な健康観察をしっかりと行い，児童の些細な変化を見逃さないようにしている。

また，毎月行う「いじめ調査（きずなアンケート）」や前述の「心と体の健康観察」，健康診断結果，保健室利用状況等も児童の心身の状況把握のために活用している。その上で，健康上課題がある場合は，遅滞なく当該児童への指導を行い，必要に応じて保護者への助言を行っている。また，発達段階に応じて心の健康についての全体への指導にもつなげている。さら

に，個別の保健指導を行う際には，各教科等と関連付けるようにしている。

心身に健康問題に関してはもちろん，健康的な生活習慣の実践に関しても適時実施している。例えば，肥満度 20%以上の児童及び保護者に対しては，養護教諭が長期休業前に「健康手帳」（熊本市教育委員会作成）や成長曲線及び肥満度曲線を活用した指導を行っている。一時点の測定値だけでなく，過去のデータや生活習慣の変容を示し，改善された点や努力した点を認めながら，個々の健康問題の解決及び自らの健康の適切な管理・改善ができるよう実践的能力や態度の育成に努めている。本年度からは，隣接校であるあおば支援学校の栄養教諭の協力を得て，希望者には保護者面談を行っている。

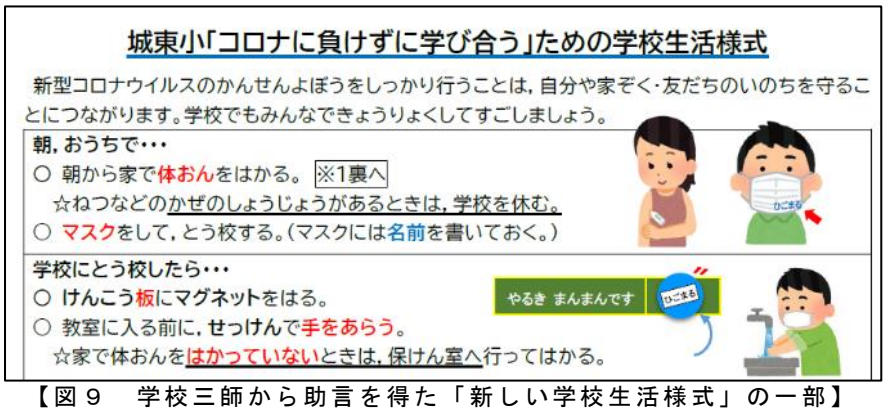
また，担任が学期末や長期休業中に行う教育相談においても，児童や保護者に対し，生活面や心身面の個別指導を実施している。

（３）学校医、学校歯科医、学校薬剤師の活動状況

本校の学校三師は，保健教育・保健管理・組織活動すべてに渡って，専門的見地から積極的に本校の教育活動に参画している。

特にすこやかサミットにおいては児童の発表内容に関する講話や講評・助言はもちろん，事前のインタビューなど児童の調べ学習の助言にも関わることができるよう協力を得ている。

昨年度は，臨時休業中に「新しい学校生活様式」を教職員で検討し，学校三師からも助言を得た（図９）。この助言に基づいて児童への指導や家庭への周知，学校での感染対策等を行っている。健康診断や修学旅行等の学校行事を進める際も，事前に綿密な打ち合わせを行い，必要な感染対策の上，実施している。



【図９　学校三師から助言を得た「新しい学校生活様式」の一部】

また，児童の興味・関心を高めるとともに理解が深まるよう，授業等への参画を行っている。昨年度は，学校薬剤師に助言や教材の協力を受け，３年の体育科保健の授業や身体測定の際に，換気の重要性についての指導を行った（図 10）。

【図 10　換気に関する指導の様子】

＜学校医・学校歯科医・学校薬剤師の活動状況＞

		具体的な活動内容	出校回数
学校医	内科	定期健康診断，臨時健康診断，就学時健康診断，職員健康診断，すこやかサミットへの参加及び指導・助言，健康相談，感染症対策及び感染症発生時における指導・助言	４回
	眼科	定期健康診断，就学時健康診断	２回
	耳鼻咽喉科	定期健康診断	１回
学校歯科医		定期健康診断，就学時健康診断，健康相談，すこやかサミットへの指導・助言，感染症対策への指導・助言	３回
学校薬剤師		水質検査，照度検査，空気検査，ダニアレルゲン検査，騒音レベル検査，臨時環境検査，健康相談，全国学校保健調査，薬物乱用防止教室，すこやかサミットへの参加及び指導・助言，感染症対策及び感染症発生時における指導・助言，保健教育への参画	４回

（４）校舎内外の環境衛生活動・管理状況

①　環境衛生の活動状況

環境と健康の関わりについて意識しながら，児童が主体的に生活環境を整えることができるように工夫している。

【図 11　ボランティアの様子】

例えば，環境緑化委員会の児童が中心となって，校庭の掃除や落ち葉掃きや草取り等の朝のボランティア活動を活発に行っている（図 11）。また朝の活動である「緑の時間」を中心とした，花壇の手入れや苗・土づくり等の取組で，花と緑に囲まれた環境を整えるなど，学校全体でよい環境づくりができるよう努めている。

日常の清掃活動においても，校訓の一つ「しごとにうちこみやりぬくこども」のもと，「まごころ掃除」と称して毎日取り組んでいる。どのような掃除が「まごころ掃除」と言えるか各学級で話し合い，目指す姿を確認した上で，進めている。また，年に２回，合計２か月間「縦割り掃除」に取り組み，校内美化に努めている。「縦割り掃除」とは，６年生全員が班長となるよう班を編成し，期間と担当区域を決め，班長を中心に協力しながら時間いっぱい掃除を行うというものである。縦割り掃除後は，下級生の掃除に取り組む姿勢や掃除の仕方が大きく向上する。

② 環境衛生の管理状況

児童が１日の大半を過ごす学校の環境は，児童の生命を守り，発育発達を促すものであることから，学校環境衛生基準に照らして，日常・定期・臨時の検査を円滑に行っている。

日常の環境衛生検査は，朝の健康観察の時間に行い，記録を残すとともに必要な場合は遅滞なく改善の措置を講じている。

定期の環境衛生検査においては，児童が主体的に行動することを通して環境衛生意識が高まるよう努めている。例えば，養護教諭と校舎内を巡視し，手洗い場やトイレ等の点検を行いながら，児童の目線からの環境衛生管理に努めている。

また，昨年度からは感染症拡大防止の観点から，衛生管理マニュアルに基づいて教職員で校内の清掃・消毒等を行うなど，学校環境衛生管理を一層徹底している。

（５）家庭・地域等との連携状況

学校は，人と人との触れ合いにより児童の人格の形成をしていく場である。児童の心身の健全な育成を目指し，学校は家庭や地域の各種団体との連携・協働を図りながら，以下のような取組を行っている。

＜学校と家庭や地域の各種団体との連携＞

すこやかサミット（学校保健委員会） 中学校職員，ＰＴＡ役員及び保体委員会，保護者，学校三師，中央区役所保健子ども課，民生・児童委員，自治協議会，８０２０健康推進委員，婦人会，体育協会，学校評議員，熊本歯科技術専門学校　等
防犯モデル地区推進委員会 ＰＴＡ会長，中央警察署，青少年健全育成協議会，防犯協会，町づくり推進課，自治会　等
安全活動（交通教室，パトロール，集団下校，避難訓練，心肺蘇生法講習，情報モラル等） 保護者，市生活安全課，民生・児童委員，交通安全協会，消防団，中央消防署，少年消防クラブ，中学校職員，中央警察署，市教育センター　等
健康相談・教育相談等 学校三師，ＳＣ，ＳＳＷ，中央区役所保健子ども課，子ども発達支援センター，専門医療機関等
生活科，総合的な学習の時間，特別活動（学活，朝の読み聞かせ，緑化・清掃活動）等 上通商栄会，熊本城管理事務所，学校三師，中央区役所保健子ども課，熊本歯科技術専門学校，ＰＴＡ図書委員会，ＰＴＡ緑化ボランティア，ＪＡかみましき，坪井川清流会　等

また，日常から通学路上の危険箇所に立って登下校中の安全に配慮する保護者・地域住民も多く，みんなで児童の安全・安心を確保しようとする意識が高い。

学校行事で行われるもちつき，地域の行事として行われる城東校区盆踊り大会，どんどや，坪井川清掃等を通して，児童が地域住民と顔見知りになる機会となっている。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響から，地域の行事のほとんどが中止となったが，本年度から少しずつ再開の目途がたってきている。

４　学校及び地域学校保健委員会の活動

（１）目標と計画及び運営状況

①　目標

学校保健委員会「すこやかサミット」は，全国に先駆けて昭和 37 年 11 月に発足した。熊本一の繁華街に住む児童が当面する健康上の諸問題について，児童や保護者・地域・関係機関等が一堂に会し，健康的な生活を送るために協議することから取組が始まった。以後，社会や生活環境の変化に伴う児童の生活習慣，運動習慣，食習慣を中心とした健康課題の解決へ向けて約 60 年に渡って続き，本校の健康教育推進の中心としてその機能を果たしている最も特色ある取組である。

健康的な生活を送ることは，心の健康と相互作用があることから，心の健康（自尊感情）を高めるため，「やればできる」「自分は周りから認められている」「ここにいていいんだ」という体験を伴う学習や活動となるように努めている。また，課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に探究し，成果等を表現して，実践できる子どもの育成を目指している。そして，どのような状態を健康と捉えるのか，なぜ健康でありたいのか等，確かな健康観を育てていくこと，健康に関する情報が溢れる現代において，必要な情報を正しく理解し，活用できる力を向上させることをねらいとしている。

特に昨年度は，新型コロナウイルス感染症の流行や長期の臨時休業があったことから，健康的な生活を送る力を身につけていることの重要性を児童自身も強く感じるきっかけになった。そこで，６年生（昨年度）が話し合い，次のようなテーマを設定した。

テーマ　「心と体を健康にして夢や希望をかなえよう」

サブテーマ　～学びを生かして みんなが笑顔になる生活にしていこう～

本年度は，昨年度の取組を受けて，６年生（本年度）が一年間を振り返り，本年度のサブテーマを次のように設定した。

～自分にピッタリの課題をみつけて　いっしょによりよい生活を続けていこう～

②　計画及び運営状況

すこやかサミットは，公開・拡大型の会を年２回開催している。昨年度はその中間に，家庭との連携を深めることを目的として，関連した取組を１回行った。３年生以上については，総合的な学習の時間「けんこうタイム」の中に位置付けている。けんこうタイムは，３年生では自分の健康課題に気づき，健康な生活にするための工夫を考えて実践することを目指し，年間 20 時間行った。４年生以上ではより詳しく自分の健康課題について調べ実践し追究することを目指し 50 時間実施した。

取組の実際は次頁の通りである。

＜令和２年度　すこやかサミットの実際＞

取組	構成メンバー	主な内容
〈事前の取組〉 ○共通授業の実施 ○今年度のテーマの検討 ○アンケートの作成，実施，分析	○３～６年児童 ※アンケートは１・２年児童も保護者と共に実施 ○教職員	○新型コロナが流行する前後の生活の振り返り（共通授業①） ○６年生によるテーマの検討とアンケート作成 ○全児童でのアンケートの実施 ○６年生によるアンケート結果の分析・発表準備 ○６年生が決定したテーマ（健康観の育成や自尊感情の向上等を含む）の共通授業②
第１回すこやかサミット **７月２２日（水）** １４：００～（４５分） 	○全児童 ○教職員 ○中央区役所保健子ども課保健師（事前事後の資料の送付） ○学校三師（事前事後の資料の送付，当日のビデオメッセージ） ○保護者（事後の資料の共有，家庭での親子作戦タイムへの参画）	○保健委員によるリラクセーションタイム（校内放送） ○すこやか委員会（保健委員会・青空（体育）委員会・給食委員会児童）による，すこやかサミットの意義やテーマの発表（校内放送） ○６年生が１～５年教室にて，生活アンケートの結果の報告 ○各クラスで，自分やクラス，学校の健康課題について意見交換 ○学校医からビデオメッセージでの助言 ○家庭で健康課題について話し合う「親子作戦タイム」の実施
親子作戦会議 **１２月２日（水）** １４：００～（９０分） 	○４～６年児童 ○教職員 ○保護者	○６年生による学習の流れについての発表 ○児童・保護者が探究課題別グループに分かれ，作戦会議（児童から保護者に報告や相談） ○全体での感想交流
第２回すこやかサミット **２月１０日（水）** １４：００～（８０分） 	○３～６年児童 ※１・２年児童は希望者のみ ○教職員 ○ＰＴＡ保健体育委員会 ○中央区役所保健子ども課（事前事後の資料の送付） ○学校三師（事前事後の資料の送付） ○保護者（事後の資料の共有，家庭での親子作戦タイムへの参画）	○６年生による学習の流れについての発表（校内放送） ○探究課題別グループによる４～６年生の発表や提案，質問タイム（ブース発表） ○６年生によるブース発表のまとめと中学生へのインタビュー調査の結果報告（校内放送） ○各学年代表児童，ＰＴＡ保健体育委員での意見交流（校内放送） ○学級ごとの振り返り ○家庭で今後の実践について話し合う「親子作戦タイム」の実施

運営にあたっては，保健主事・養護教諭を中心に，児童の「学びたい」「このように進めたい」という思いを尊重しながら内容の精選及び企画等を行い，全職員で共通理解・共通実践を図っている。また，運営を円滑にするために，校内の研究部，健康教育部，ＰＴＡ保健体育委員会，児童保健委員会との連携を深め，綿密な打ち合わせを行い，計画的・組織的に取り組んでいる。

（２）事後の取組状況と地域との連携状況

①　事後の取組状況

すこやかサミット後も児童の課題意識が継続し，実践が定着するよう，「親子作戦タイム」を実施している。これは，親子で，子どもの健康課題やその改善に向けて取り組むことについて話し合う活動である。昨年度からは，感染症拡大防止のため保護者の参観を中止していることから，家庭での親子作戦タイムとしている。詳細は，調査票Ⅱ２（５）家庭・地域との連携状況で述べる（p. 33）。

また，昨年度の夏休みは，臨時休業中にできなかったことを意識して過ごせるよう，６年生が「夏休み　すこやかチャレンジ」というシートを作成した。これは，親子作戦タイムで話し合ったことを受けて，夏休みの目標を一つ決め，その目標に向かって取り組むことを記入し，毎日記録をするものである。このシートは２学期からの学習にも活かすことができた。なお，本年度はこのシートを６年生とＰＴＡ保健体育委員会で合同で作成している。

以上のような事後の取組も含め，すこやかサミットの開催内容や当日の資料や感想の一部，その他関連した取組について，学校便り，学級便り，学校保健委員会便り，ＰＴＡ新聞，ホームページ等で周知し，取組が校内だけに留まらないようにしている。

さらに，すこやかサミット後は毎回，参加者全員から感想や意見，今後に活かしたいことなどの振り返りを集め，評価・改善につなげている。

②　地域との連携状況

毎年，学校三師はもとより，民生・児童委員，学校評議員，中央区役所保健子ども課の保健師・栄養士・歯科衛生士，校区の８０２０健康推進委員，熊本歯科技術専門学校等の地域の方々に参加を依頼しているが，昨年度から感染症拡大防止のため，すこやかサミットの当日の直接的な参加

は中止している。そのため，事前事後の資料の提供という形をとっている。

その中でも，長年本校の健康づくりに関わっている学校医とは，連携の方法をよく相談するようにしている。相談の結果，事前に生活アンケートの結果を学校医に渡し，助言を得ることになった。校区の医師として児童へ伝えたいことや新型コロナウイルスの感染対策について，動画のメッセージをいただくことができ，すこやかサミット当日にそのメッセージを放送した。メディアの使い方について，その利点や欠点に気づき，使用方法について親子で考えることが大切であること。運動不足や体力低下を心配している児童が多いが，日常生活に少しずつ戻っていくことで取り戻されていくので心配しすぎることはないこと。感染防止に考慮した遊び（影踏み鬼など）が勧められること等が助言された。児童は，いつも自分たちの健康づくりに携わっている学校医からの言葉に熱心に耳を傾けていた（図 12)。

【図 12　すこやかサミットで学校医からのビデオメッセージを視聴する児童】

また，中央区役所保健子ども課の保健師からは，特定健診質問票結果より，校区の住民の運動状況，朝食欠食状況，睡眠不足を感じる人の割合等，生活習慣に関するデータを得た。この情報は，児童がけんこうタイムで学習を進める際に活用した。

すこやかサミット後には，開催の様子や児童・保護者の感想をまとめ，学校医や保健師に報告した。

このように，直接のやりとりは例年より削減したが，コロナ禍でも可能な効果的な連携の在り方を模索し，児童の心と体の健康づくりに向けて地域に開いた活動を推進している。

けんこうタイムやすこやかサミットの取組については，調査票Ⅱの（３）活動の実践状況（p. 19）で詳しく述べていく。

Ⅱ　特徴的な活動「よりよい生活に向けて変わり続ける　すこやかな城東っ子の育成」

1　重点課題と活動のねらい

（1）課題の把握と設定状況

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための長期休業は，健康づくりを推進してきた本校児童にも大きな影響を与えた。健康な生活の大切さを繰り返し学んできたにも関わらず，長期休業の中で自ら計画を立て規則正しい生活を送ることは難しかったのである。

新型コロナを含めいかなる状況においても，健康な生活について自ら考え，行動できるようにするためには,「児童主体の健康づくり」をより一層充実させていくことが重要である。

そこで，健康づくり研究テーマを「よりよい生活に向けて変わり続ける　すこやかな城東っ子の育成」と掲げ,「児童主体の健康づくり」という視点から実践を見直し，改善を図ってきた。

（2）活動のねらい

「児童主体の健康づくり」を促し，自ら継続していく実践意欲や実践力を育むために以下の３点に留意して取り組む。

○６年生を中核とした学校全体の健康づくりの推進

○「課題把握」「企画・運営」「実践」「成果の自覚」というＰＤＣＡの過程を重視した健康づくりの推進

○ＩＣＴを効果的に活用した家庭・地域への啓発と連携

2　計画と実践の状況

（1）全体及び年間指導計画

健康教育全体計画及び健康教育年間指導計画（資料５－１，２）をもとに，特徴的な活動の年間計画（図 13）及び全体計画（p. ２図２）を作成した。全体計画は健康づくり構想図を基本としている。図 13 では前年度からの変更点を赤字で示した。

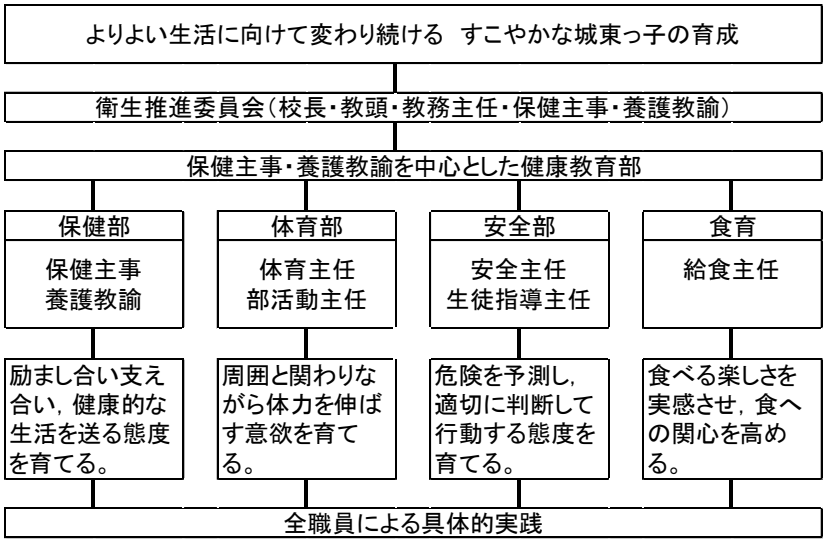
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
けんこうタイム（総合的な学習の時間）			生活の振り返り・アンケート	第１回すこやかサミット	夏休みすこやかチャレンジ	探究課題の設定	グループ別探究→		親子作戦会議	中学生への調査	第2回すこやかサミット→	一年間の振り返り
保健						歯みがきツアー		歯みがきツアー・姿勢週間			歯みがきツアー・よい姿勢デー	
			身体測定時の指導			身体測定時の指導	身体測定時の指導			身体測定時の指導		身体測定時の指導
						1年歯科指導親子歯みがき		歯科健康診断・健康相談				
	心と体の健康観察・健康相談											
安全	安全点検											
			避難訓練									
	地区児童会集団下校			地区児童会集団下校		地区児童会集団下校			地区児童会集団下校	地区児童会集団下校		地区児童会集団下校
			安全な休み時間・登下校の過ごし方									
食育			学級園栽培校産校消									
			安全な給食配膳							給食週間		
体育			青空・たてわり班遊び			青空・縦割り班対抗リレー練習		青空・たてわり班遊び			青空・たてわり班遊び	
その他				城東っ子集会「夏祭り」			たてわり掃除	たてわり掃除 城東っ子集会		たてわり掃除	たてわり掃除	
PTA								児童引き渡し訓練				PTA総会

【図 13　令和２年度　特徴的な活動の年間計画】

（２）組織体制

「よりよい生活に向けて変わり続ける　すこやかな城東っ子」に近づけるために，４つの部会がそれぞれのめあてに向けた取組を提案していく。

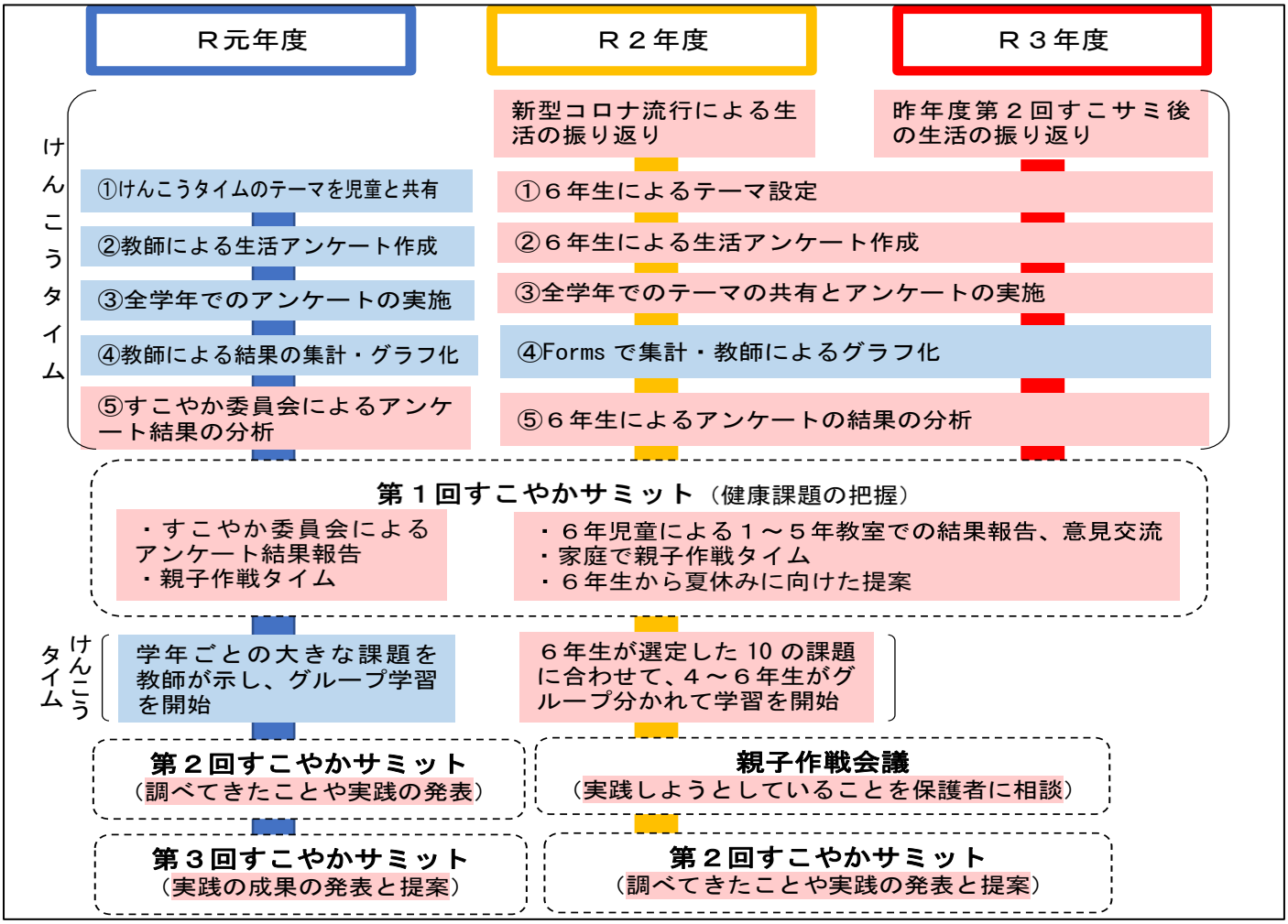
そして，保健主事・養護教諭が中心となって連絡・調整を行い，連携を図りながら全職員の共通実践化を目指す（図 14）。



【図 14　組織体制】

（３）活動の実践状況

本校では，４領域（保健・体育・安全・食育）での活動を基盤としながら，総合的な学習の時間「けんこうタイム」及び学校保健委員会「すこやかサミット」を中心に，健康教育を推進している（前述 p. ２図２）。４～６年生が「けんこうタイム」で追究した課題を「すこやかサミット」で発表し，児童・保護者・地域が一緒になって健康について考えていくのである。これらを「児童主体の健康づくり」の視点をもとに，令和２年度から大きく変更した。それを示したのが下図（図 15）である。教師主導の取組はブルー，児童主体の取組はピンクで色分けして示している。



【図 15　けんこうタイム及びすこやかサミットの取組の変遷】

主な変更点は次の２点である。

〈１〉テーマ設定やアンケート調査，結果の分析や全校での共有化等，６年生を中核とした「けんこうタイム」「すこやかサミット」の推進
〈２〉「親子作戦会議」の位置づけ

令和元年度までは，テーマ設定からアンケート調査等を教師主導で進めていた。また，各学年における課題追究も，「心と生活習慣」（４年），「心と運動習慣」（５年生），「心と食習慣」（６年生）という教師側から指定したテーマをもとに選ぶ形をとっていた。しかし，令和２年度からは，６年生を中核とした学びに変更した。

また，実践発表を主な内容としていた「すこやかサミット」に加えて「親子作戦会議」を位置づけ，自分たちの実践を振り返るようにした。

〈１〉〈２〉により，「児童主体の健康づくり」を進めることが可能になってきた。

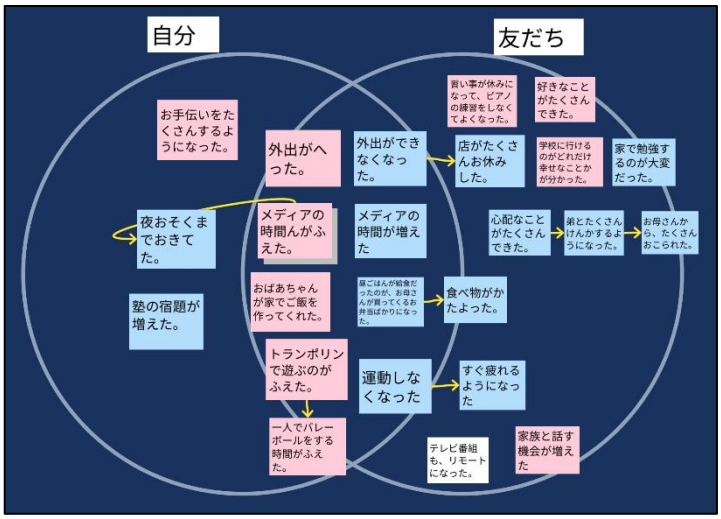
以下，具体的な実践について述べていく。

≪令和２年度の活動実践≫

①　第１回すこやかサミットに向けて（６月～７月）

ア　課題把握（けんこうタイム）

昨年度は年度始めに長い臨時休業があり，この期間，児童の生活には多くの課題があった。その課題を児童自らが見い出し，目指す姿（テーマ）を設定できるようにしたいと考えた。そこで，まず臨時休業中の生活の変化を振り返ることから学習をスタートした。



【図 16　タブレット端末によるカード比較】

変化した点をカード（良い点はピンク，悪い点はブルー）に書き（図 16），友だちと比較すると，「運動しなくなった」「メディアの時間が増えた」など共通の課題があること，またその受け止め方には違いが見られることなど，多くの気づきが生まれた（図 17）。

【図 17　カードを比較して話し合う児童の様子】

イ　企画・運営（けんこうタイム）

（ア）テーマの設定とアンケート作成

前述の振り返りを進めていくと，６年生の中に自分たちの変化に対する課題意識が高まった。また，他の学年の状況はどうなのだろうという疑問も生まれた。それが学校全体のテーマ設定とアンケートづくりにつながっていっ

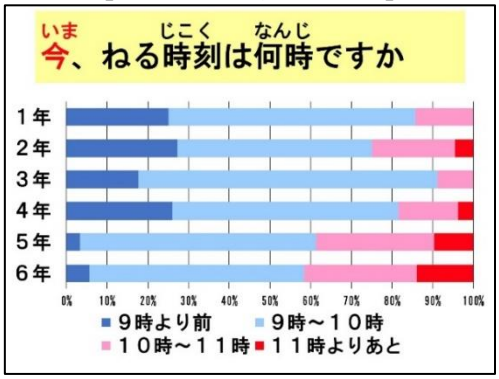
た。

６年生が設定したテーマ（目指す姿）は，「心と体を健康にして夢や希望をかなえよう　～学びを生かして，みんなが笑顔になる生活にしていこう～」である。新型コロナウイルスが感染拡大したことで，改めて日ごろの健康的な生活の大切さについて感じた６年生。これまでの学びを生かして，友だちや家族，地域の人，みんなが笑顔で生活できるようにしていきたいという思いから生まれたテーマである。このテーマのもと，アンケートづくりや調査へと進んでいく。

【図 18　分析する６年生】

（イ）アンケート結果の分析と発信

アンケートの実施後，数値やグラフからどんなことが読み取れるか，６年生全員で分析を行った（図 18）。その結果，学校全体の健康に対する様々な気づきが生まれた。例えば，２年生は，寝る時刻が５・６年の次に遅いが（図 19），そのことにはメディアの使用時間が関連しているといったことである。このような分析結果を１～５年生に伝え，自分たちの実態を知ってもらいたい，考えてもらいたいという願いが後述の第１回すこやかサミットにつながっていく。



【図 19　就寝時刻（学年比較）】

ウ　実践（第１回すこやかサミット）

第１回すこやかサミットでは，６年生が１～５年の教室に分かれて入り，結果報告をした（図 20）。６年生は，対象となる学年に応じた内容や伝え方を工夫する様子が見られた。また，報告を踏まえて当該学年と６年生のやりとりができるように「意見交流タイム」も設けた。

【図 20　アンケート結果を伝える様子】

エ　成果の自覚

生活の振り返り，テーマ設定，アンケート作成・分析，各学年への報告という学習活動の中で，学習の振り返りを記録している。それを見ると，６年生が課題意識を持ち，主体的に取り組んでいることがわかる（次頁）。

次頁〈１〉や〈４〉の記述からは，自ら学校全体の生活の実態に目を向けていること，〈２〉や〈３〉からは，目指すテーマにつながるようにアンケートを工夫していること，〈４〉や〈５〉からは，低学年にも伝えたいことが伝わった喜びな

どを捉えることができる。６年生が主体となって城東小全体の健康づくりを推進していこうとする姿勢の表れである。

〈１〉臨時休業中の生活の変化比較後の振り返り
「友だちと意見を交流して，同じところや違うところがあっておもしろかったです。他の学年や保護者の人たちとも同じ意見があるのか知りたいです。」
〈２〉テーマ設定後の振り返り
「休校期間中にできなかったことができるようになって，心も体も健康になるくらしを目指したい。」
〈３〉生活アンケート作成中の振り返り
「低学年にも質問の内容がわかるか，ゴール（テーマ）に近づくための質問になっているかなどを考えながら作っていると，すごく悩みました。アンケートを作るのは大変だけど，完成させたいです。」
〈４〉アンケート分析中の振り返り
「アンケート結果の分析はすごく楽しかったです。やはりコロナのこともあって，きちんとハンカチを交換している人が多いようでした。これからは結果を簡単にわかりやすくまとめていきたいです。」
〈５〉すこやかサミット後の振り返り
「アンケート結果を報告しているときに，下級生が「あ～」と言ったり，うなずいたりしていた。自分たちの考えたことが伝わっているとわかって嬉しかった。」

第１回すこやかサミット後も，「夏休み　すこやかチャレンジ」（各自が目標を決めて実践・記録するシート）を作成し，全学年での実践を提案するなど，実態の改善を促していった。

②　親子作戦会議に向けて（８月～12 月）

ア　課題把握（けんこうタイム）

２学期は,「夏休み　すこやかチャレンジ」の振り返りから学習をスタートした。各学年において,夏休みの生活で良かったところとできなかったところを整理し，６年生に報告。次にその結果を受けて，６年生は４・５年生に提案する探究課題を考える。そして,「メディアとの付き合い方」「家庭での運動」「好き嫌い」など 10 個の探究課題を設定した。

イ　企画・運営（けんこうタイム）

６年生は，探究課題に合わせて 10 グループに分かれ，実態，目標（目指す姿）に近づくためにこれから調べてみるとよいこと，実践してみるとよいことを考えた。

そして，４～６年生合同のけんこうタイムで，６年生から４・５年生に探究課題を示し，４・５年生には,その中から自分に合ったもの,探究したいものを選ぶ時間を設けた。その後,探究課題ごとのグループに分かれ，それぞれの実態と目標（目指す姿）を４～６年生で話し合った（図 21)。

〈４年生に向けた探究課題〉	〈５年生に向けた探究課題〉
・早寝早起き	・メディア②
・時間の使い方	・家庭での運動
・姿勢	・休み時間の運動
・お手伝い	・好き嫌い
・メディア①	・間食

【図 21　合同けんこうタイムでの４・６年生の話し合いの様子】

その後，４・５年生は調べ学習や実践を進めていくが，６年生は４・５年生が困っているときに助言をしたり，一緒に解決方法を考えたりした。

また，６年生はこれまでの学習経験から，授業参観等で保護者に一度内容について相談し，保護者からの意見が役に立つと実感していた。そこで，４・５年生も同様の経験ができたらいいと考え,「親子作戦会議」を企画した。このことは４・５年生にも伝え，保護者には自分たちで案内状を作成した。

ウ　実践（親子作戦会議）

コロナ禍の厳しい状況ではあったものの，やや感染状況が落ち着いた時期に，希望した保護者 20 人程を招いて直接児童と話し合う機会として「親子作戦会議」を実施することができた。児童は探究課題別のグループに分かれ，各グループに保護者２，３人ずつ入ってもらい，６年生がグループ内で司会進行を行った（図 22）。

【図 22　保護者と児童で話し合う様子】

児童は今まで調べてきたことやこれから実践しようと思っていることについて保護者に伝え，「本当に学校や家庭での生活の中で実践できるものなのか」「家庭での協力を得られる実践なのか」といったことを相談した。保護者からは「実践を続けるための方法として，こんな工夫ができるのではないか」「保護者の願いとして，こんなことを子どもたちにもがんばってほしい」といった率直な意見が児童に伝えられた。

エ　成果の自覚

親子作戦会議後の児童の振り返りには，次のような記述があった。

> ○今日はおうちの人からアドバイスをたくさんうけました。「昔の遊びをしてみたらいい」とか「ふだんの生活の中に入れられるものがいいよ」と言われました。これからもっともっとよくしていきたいです。（「家庭での運動」チームの５年生）
>
> ○保護者の方からいただいた意見をどう活かしていくのかが大切だと思いました。メディアの時間をゲーム感覚で楽しく決める方法として“割り箸くじ”を考えていたけど，もっとランダム性の高いルーレットもよいという意見が出ました。それに，各家庭の人数などにも考慮した実践内容であることが重要だと感じました。家庭でのメディアの問題は，保護者の方々からの視点で見ると，もっと深刻なものだと思いました。誰でも取り組めて，相手の興味をひくような実践に改良したいと思います。（「メディア②」チームをサポートする６年生）

保護者からのアドバイスを受け止め，実生活で継続するための新たな取組のアイデアを見つけ，改善したいと考えていることを捉えられる。

また，参加した保護者からも，「４・５年生のアシスタントに６年生が付いていて，所々でサポートしているのは良かった。６年生を頼もしく感じた。」等，６年生が主体となった取組のよさを指摘する意見が多数あった。また「少人数だったので意見も聞きやすく発言もしやすかったように思う。」という意見も多く，例年のすこやかサミットより和らいだ雰囲気で活発に意見を交流する様子が見られた。

③　第２回すこやかサミットに向けて（12 月～２月）

ア　課題把握（けんこうタイム）

４～６年生は親子作戦会議から新たに考えたことを踏まえ，冬休みを含め１か月以上，健康課題の解決に向けた実践に取り組むこととなった。その結果からわかったことやみんなにも勧めたいことを発表し，提案する場が第２回すこやかサミットである。

イ　企画・運営（けんこうタイム）

４・５年生は，グループで探究したことをまとめ，提案するための準備を進めた。提案はプレゼンを作り発表する。６年生は各グループの取組状況を見て以下のような視点でアドバイスを行った（図 23）。

【図 23　４年生の発表をみる６年生】

○伝えたい内容は，健康課題の解決につながっているのか

○発表は，聞き手の行動を変えることができるのか

○プレゼンの内容（伝えるべき内容が明確か）

○プレゼンの作り方（プレゼンの流れ，情報量，色，情報モラル等）

○発表の仕方（身振り手振り，問い返し，声の大きさ，目線等）

また，６年生の中には，「中学生になっても，自分たちがしていることはつながっていくのか」という強い疑問が生まれた。自分たちが主体となって取り組んできたからこそ，生まれた疑問である。そこで，中学生へのアンケートやインタビューを実施することになった。詳細は後述する（p. 35）。

ウ　実践（第２回すこやかサミット）

６年生はこのような様々な取組を進める中で，第２回すこやかサミットの構成について以下のように考えた。そして当日は，校内テレビ放送と５教室に分かれたブース発表を交えながら実施し，６年生の保健委員会が全体の進行を担った。

○今までのけんこうタイムの取組の経緯についての発表（テレビ放送）

○４・５年生の各グループのブース発表（図 24～26）と６年生による各グループ発表の補足と価値づけ（中学生へのアンケート調査結果を含む）

○ブース発表のまとめと中学生へのインタビュー結果報告（テレビ放送）（図 27）

○３年生以上の学年代表とＰＴＡ保健体育委員による意見交流（生中継）（図 28）

【図 24　ブースで発表する４年生】

【図 25　５年生が提案したストレッチを
ブースの全員でやってみる様子】

【図 26　５年生の発表に質問を聞いて
質問をする３年生の様子】

【図 27　中学生へのインタビューを
流している様子】

【図 28　ＰＴＡ保健体育委員を交えた
意見交流の様子】

〈ＰＴＡ保健体育委員の保護者の感想〉

○６年生がしっかりサポートしてくれていると感じました。４・５年生の発表は相手に「やってみたい」と思ってもらいたいという気持ちがよく伝わってきました。

○どのブースの提案も工夫されていて「今日からやってみたい」と思うものばかりだった。提案した取組を中学生になっても，大人になっても続けていってほしい。

その後，全児童，全保護者に第２回すこやかサミットの取組を周知し，これからの実践や生活の改善に生かすため，家庭での「親子作戦タイム」を行った。詳しくは後述する（p. 33）。

エ　成果の自覚

第２回すこやかサミット後の児童の振り返りには次のような記述があった。

○今年は，私たち６年生が先生の役割をして，最初から最後まで**自分たちの力でやりぬくことができました。**初めは何をどうやってどうすればいいのか，どうすれば４，５年生に伝えられるかなど，いろいろな戸惑いもあったし，迷いもありました。しかし，その度に**何度も今までに学んだことをしぼり出し，友だちと意見を出し合って，先生方の力も借りて，とてもいいすこやかサミットを作り上げることができました。**でも，まだこれで終わるのではなく，**中学生になっても大人になってもこの学びを活かして実践し続け健康な生活を送っていきたいです。**（６年生）

○１学期から取り組んできて，達成感が今まで以上にありました。中学生もすこサミで学んだことを継続していることがわかったので，ぼくもそうしたいです。（６年生）

○２学期からずっと取り組んできて，最初に取り組んだビンゴ，カレンダーはうまくいかなかったけど，**改良して作ったビンゴは，前のビンゴよりとても楽しく実践できるようになりました。すこやかサミットが終わったからといって終わりではなく，これからも続けていきたいです。**（４年生）

児童が主体的に活動した達成感，上級生への憧れ，実践への意欲等が表れている。

３学期の終わりには５・６年生で今年度のけんこうタイムを一緒に振り返り，６年生から５年生へ引継ぎを行った（図 29）。５年生は，「次年度は，自分たちが健康づくりのリーダーとなって活動を進めていく」という思いを新たにもつことができた。

【図 29　５・６年生がグループに分かれて振り返りをする様子】

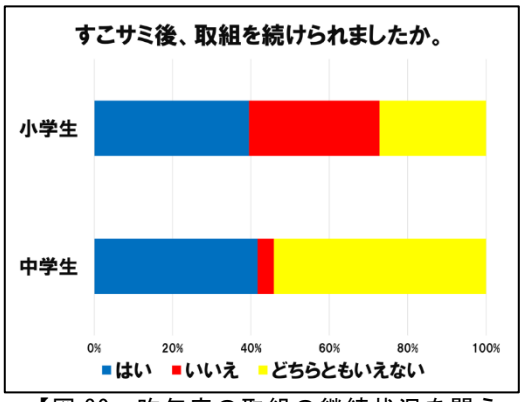
≪令和３年度の活動実践≫

④　第１回すこやかサミットに向けて（４月～７月）

～実践は継続されているのか～

児童主体の健康づくりを目指して，昨年度，大きく変更した「けんこうタイム」と「すこやかサミット」。その中で，児童の課題意識も高まり改善に向けて取り組む姿も多く見られるようになった。しかし，その実践は今でも継続されているのか。本年度は，その疑問がけんこうタイムのスタートとなった。

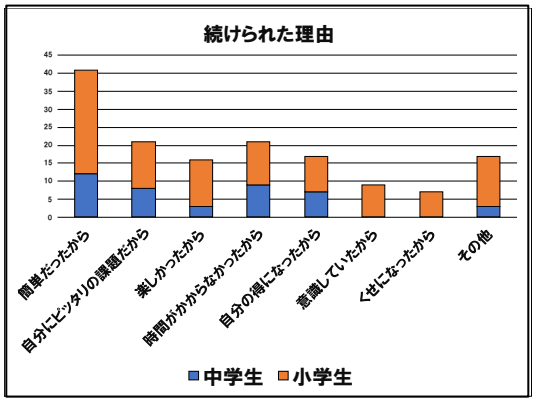
６年生がアンケートを作成し，４～６年生と中学１年生を対象に調査した。結果は図 30 の通りである。今までより継続できているが十分ではないことがわかった。取組を継続できた理由を尋ねると，「簡単だった」「自分にピッタリの課題だから」が多かった（図 31）。このことからもわかるように，普段の生活の中で実践できる，かつ，自分に本当に合った「ピッタリの課題」を見つけることが重要だと言える。



【図 30　昨年度の取組の継続状況を問うアンケートの結果】

そこで６年生が考えた本年度のテーマが，「心と体を健康 にして夢や希望をかなえよう～自分にピッタリの課題を見つけて　いっしょによりよい生活を続けていこう～」である。

テーマ設定後も，昨年度の児童主体の活動を踏まえ，６年生が中核となってアンケートづくり，アンケートの実施，結果の分析，各学年への報告（次頁図 32）という流れでけんこうタイム及びすこやかサミットを進めている。



【図 31　昨年度の取組を継続できた理由を問うアンケートの結果】

昨年度夏休み前に６年生が提案した「夏休み　すこやかチャレンジ」は，より家庭と連携した取組とするため，今年は６年生とＰＴＡ保健委員会と合同で「夏休み

親子はりきり表」を作成した。

第１回すこやかサミット後の６年生の振り返りに次の記述が見られた。

> 今回のすこやかサミットで大事にしたのは，必ず相手のことをほめることでした。
>
> 私は１年生担当だったので，１年生をほめれば自分の良いところや課題に気づけるんじゃないかと思って，ほめながら伝えました。感想・質問タイムでは**１年生のみんながどこがいいのか，どこを改善するのかなどをちゃんと考えていてくれたので，伝わったことがわかってとても嬉しかったです。**
>
> **自分もメディアのことで改善しなければならないところもある**ので，他の学年に負けないくらいに平日や休みの日はもちろん夏休み等様々なところで実践してみたいと思いました。

【図 32　すこやかサミットで報告する６年生】

自分たちでアンケートを分析し，伝えたいことを整理し，相手に伝わる言葉を考えて発表するという児童の主体的な取組の大変さと充実感が感じられる。また，相手に伝えることが，自分自身の生活を見直すことにもつながっていることもわかる。

（４）児童会の活動状況

本校では，『保健』『体育』『安全』『食育』の４分野での健康づくりを委員会活動でも実施している。その中でも，児童が主体的に学校生活上の課題を見つけ，解決方法を考え，実践している活動について，４分野と『その他』の領域から論述したい。

『保健』

①　一年間を通して行った「よい姿勢」の取組

昨年度，保健委員会では，第１回すこやかサミット前のアンケート結果や先生たちへのインタビュー調査をもとに，「よい姿勢」を年間のテーマとして取り組むことにした。実態として「授業中，だんだん姿勢がくずれていく人が多い」「机の手前中央に貼っているおへそシールを活用できていない」という問題点が挙がった。よい姿勢を保つためには，一人一人の意識の向上が求められると考え，全校で楽しみながら取り組めるよう「姿勢週間」を企画し，次のように進めた。

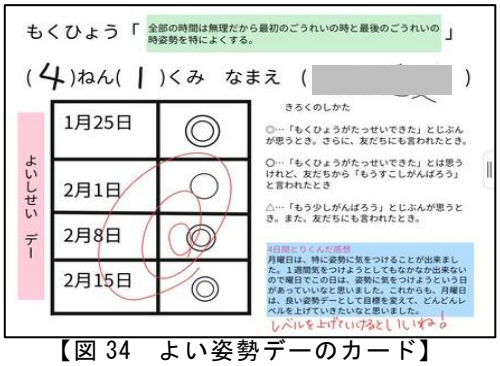
〈１〉よい姿勢の効果と姿勢週間の取組内容について保健委員がプレゼンを作成し，放送による全校集会で発表
〈２〉保健委員が各クラスに出向き，姿勢ついてのクラスの目標を決定（図 33）
〈３〉各クラスの目標を翌日のテレビ放送で紹介（全校で取り組むことを意識付けする。）
〈４〉２週間，毎日クラスにおいて姿勢目標の振り返り（一日意識して過ごせた児童は名簿にシールを貼る。）
〈５〉２週間後，名簿を集計し，目標達成率が高かった上位３クラスを表彰

【図 33　１年生の教室で保健委員と共に姿勢の目標を話し合う様子】

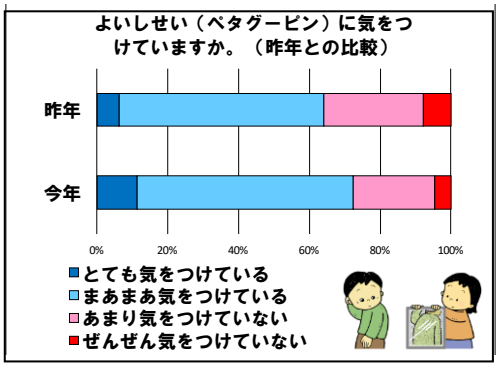
取組後，委員会の時間に振り返りを行い，委員から次のような意見が挙がった。

○一人一人姿勢の実態が違うので，クラスで決めた目標が人によって簡単すぎたり難しすぎたりした。クラスで一つの目標にするより，自分に合った目標を立てるといいのではないか。目標をより具体的にした方が気をつけやすい。
○自分で振り返るだけだと，気づかないこともある。友達や先生に評価してもらえるといい。
○今回は２週間続けてチェック日にしたけど，習慣にするためには，週に１回を長期間してみるのもいい方法だと思う。

この振り返りを生かした取組として「よい姿勢デー」を３学期に４日間実施した。図 34 はタブレット端末で作成したカードである。保健委員が考えた３段階の目標レベルを参考にしながら自分の目標を決定し，自己評価と隣りの席の友達から評価をしてもらう仕組みにした。取組後には，保健委員で役割分担をして，コメントを書いて返却した。また，取組は保健だより等を通して家庭にも知らせた。今年６月の生活アンケートの結果を見ると，よい姿勢に気をつけている児童は昨年度より増えている（図 35）。昨年度一年間を通して，児童，教職員，家庭で一丸となって一つのテーマを掲げて取り組んだ成果と考える。



【図 34　よい姿勢デーのカード】



【図 35　昨年と今年の姿勢への意識の比較】

『体育』

② スポーツフェスティバルでの「縦割り班対抗全員リレー」

本校では，体力テストの結果から，柔軟性や敏捷性，持久力は高いものの走力が低いという課題がある。それに加え，臨時休業明けからは，体力の低下も大きな課題となった。そのような状況の中，運動会も感染防止のため従来通りの内容で実施することができなくなった。

そこで，６年生を中心とした児童及び教師で検討した結果，運動会を「スポーツフェスティバル」として実施することにした。その中でメインとなる競技として考えられたのが「縦割り班対抗全員リレー」である。もともと本校の課題でもある走力を高めたいという児童の意欲と，臨時休業明けということもあり，楽しんで体を動かしながら，つながりを強めたいという気持ちを尊重し，これまで運動会で行ってきた「選抜リレー」を改め，「全員リレー」の実施を決めた。

全員リレーでは，１～６年の異学年の児童が 20 人程集まる縦割り班でチームを構成した。10 班あるため，前半５班，後半５班で競い合うことにした。リレーのメンバー編成は，各班の高学年児童が走順を考え，走ってみて再度話し合い，何度でも変えることができるようにした。

【図 36　高学年児童がバトンパスを教える様子】

また，大半の児童がバトンパスに慣れていなかったため，青空活動（全校体育）で高学年から低学年に教えた（図 36）。青空活動では，毎週火・金曜日の朝の時間に運動遊びの活動を中心に行い，異学年交流を推進するとともに楽しんで体力を向上させることを重視している。練習を重ねる中で，自然と激励の声が飛び交い，児童から教師へ「練習する時間を増やしてほしい」という声があがるなど，積極的な言動がみられた。

児童が全校リレーを企画・運営し，反省を経て，並び方やバトンパス，走りについて改善しながら高め合うことで，運動活動が活性化した。実際に６月と 12 月の比較で，児童の 50m走のタイムが伸びた。また，走ることが好きな児童が増え，学校全体の体力を高めることができた。

本年度も５月に行われた運動会で縦割り班対抗全員リレーを行った（図 37）。感染防止のため保護者の参観がなかったが，ライブ配信を通じて，家庭で視聴してもらい，好評を博した。

【図 37　運動会当日のリレー】

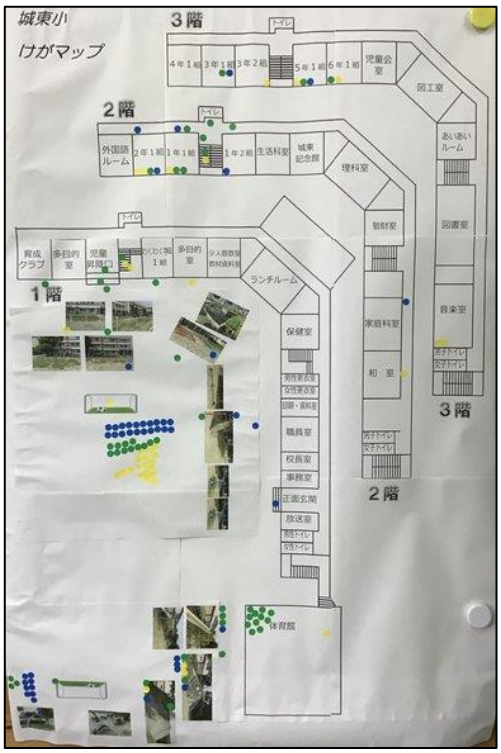
このようにコロナ禍で運動会の見直しをせざるをえない状況のもと，全校リレーを新設することで，「異学年での協働的な学びの場」となった。また，高学年児童がリードすることで「主体的に考え，判断し，行動する場」を作り出すことができた。

『安全』

③　けがマップを活用したけがの防止に向けた取組

昨年度末の保健委員会の振り返りの一つに，同じ場所でのけがが多いということがあった。遊具の周りで別の児童とぶつかって転倒し負傷する児童が多かったのである。養護教諭や他の教職員から何度か呼びかけは行ったものの，同様のけがはなくならなかった。

新年度に入り保健委員会で取組を考えたところ，まずはどんな場所・場面でのけがが多いのかを把握するべきだという話題になった。そこで，けがをした児童がいた際に，校内の地図上のけがをした場所にシールを貼る「けがマップ」(図 38)を作成することとなった。



【図 38　けがマップ】

本校では年度始めの全校集会で全委員会集会がある。委員会のメンバーを紹介し，よりよい学校にするために各委員会が担っている役割と力を入れて取り組んでいる内容等を下学年の児童に向けて発表する場である。今回はその場面で，けがを減らすことを目的として「けがマップ」を作成することを全校児童に知らせた。

保健委員会の当番活動の一つにけがをした児童の対応がある。「大丈夫？」「痛かったね」と相手を労わる言葉の他にも，「どこでけがをしたの？」「どうしてけがをしたの？」とけがの状況をきちんと聞きとろうとする委員の児童の姿がより一層みられるようになった。

取組を始めて２か月後，委員会の時間にけがマップの分析を行った。ちょうど５年生の保健「けがの防止」について担任と養護教諭ＴＴで授業を行った後のタイミングでもあったため，「危険を予測し，どのように回避するか」という視点も含め，活発な意見交換が行われた。その際に挙がった意見は次の通りであった。

○運動場は真ん中でけがをする人が多い。ドッジボールなどをしている人たちのコートに気付かずに，鬼ごっこをしている低学年の子たちがコート内に走って入っていき，ドッジボールをしている人とぶつかるけがが何回かあって，危なかった。
○昨年多かった，遊具の周りでけがをする人は減った。でも，遊具の裏の細い通り道にある鉄格子の上を走っている人はゼロにはなっていない。滑りやすくて危険なので，大けがが起こる前にみんなに知らせたい。
○それでも減らないときには，けがが多い場所に看板や注意のポスター，テープなどを貼るといいかもしれない。

【図 39　児童が作成したスライド】

このような意見から，けがをしやすい場所・場面を絞って，そこでの注意点について放送で伝えることになった。役割分担をしてけがをしやすい場所・場面をタブレット端末で写真に撮り，音声を録音したスライドを作成し（図 39)，昼の校内放

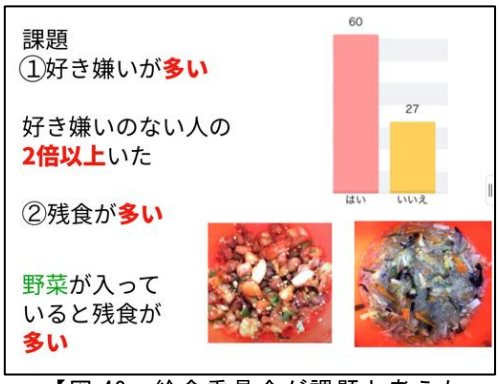
送で流した。放送後２週間経った１学期末時点ではこの放送で指摘した場所や場面でのけがは起こっておらず，けがの件数自体が減っている。他にも，けがした児童が自分でできる手当て（受傷部分を流水で洗い流す等）をする低学年の児童が増えている。保健委員の主体的な「子どもによる保健指導」が良い影響を及ぼしている。

『食育』

④　食に関する健康課題の改善に向けた給食委員会の取組

昨年度１月の給食記念週間に合わせて給食集会を行った。給食委員会の児童は「残食」の課題に注目し，取り組むこととなった（図 40）。

そこで，全学級に好き嫌いアンケートを実施した。その結果をもとに，嫌いな食べ物の上位に入ったにんじん，ピーマン，ゴーヤ等の野菜を食べることのよさを調べ，テレビ放送の全校集会で発表した。



【図 40　給食委員会が課題と考えた残食の実態】

また，けんこうタイムで「好き嫌い」を課題として取り組んだ５年生のグループはこの発表も参考にして，嫌いな野菜を食べやすくなるアレンジレシピや好き嫌いを楽しく克服する“すごろく”を活用した方法を考案し提案した。

その提案をした昨年度の５年生が本年度は給食委員となり，「残食をゼロにする」という目標を掲げて，主体となって取り組んでいる。年度始めの全委員会集会では早速，この目標を全校児童に伝え（図 41），意識を高めている。

【図 41　全委員会集会で目標を発表する給食委員会】

他にも，毎日献立の中に含まれている食材の栄養や料理の由来について給食時間に放送で紹介したり，ランチルーム前の廊下に献立の紹介のホワイトボードを掲示したりして（図 42），みんなが苦手としやすい食材に興味や関心を持ってもらうための取組を行っている。月に１回行われている，栄養教諭によるテレビでの食育指導（その日の献立や食材に関する内容）も相まって，意識の向上が促されている。

【図 42　廊下のホワイトボード掲示とそれを書く給食委員】

夏休み直前の給食にも苦手とする児童が多いゴーヤが含まれていたが，委員会で調査したところ，残食は少なかった。現在はみんなの意識の高まりを継続させていくため，ポスターの作成を計画している。今後も委員会の児童が主体となって，その都度振り返りを行いながら活動を重ねていく。

『その他』

⑤　企画委員会を中心に取り組んだ「城東っ子夏祭り」

本校では，年２回児童会活動「城東っ子集会」を行っている。これは，企画委員会を中心として，代表委員会で内容や係分担を決定し，運営していくものである。学校生活を安心して楽しく過ごすための一助になっている。

昨年度１学期は，感染拡大防止のため，体育館での集会が難しく，活動を見送る案がでた。しかし，企画委員会の児童が，「みんなが楽しみにしているから，何とか全校で楽しめる集会をしたい」という思いで動き始めた。そこで，企画されたのが「城東っ子夏祭り」である。

これまでの城東っ子集会や地域での夏祭りの経験を生かしたアイディアを出し合うだけでなく，感染拡大防止の観点からも，「校内全体を使う」「縦割り班を半分にして回る」など，場の設定やゲームのルールの工夫を話し合う姿が見られた。

当日，１～４年生は縦割り班でブースを回り，５・６年生は下学年にゲームの説明をしたりお世話をしたりして，ブースを運営した（図 43）。互いに夏祭りを楽しむ様子が見られた。

【図 43　城東っ子夏祭り】

このように，自分たちで生活上の課題を見つけ，それを解決する方法を合意形成して決定し，実践する中で，自分の役割を果たそうとする態度や他と協働して解決しようとする態度や，誰かの役にたったという自己有用感をもつことができた。自己有用感をもつことで,自尊感情が高まり,それが健康づくりの土台となっていく。

このような「学校文化」を築く一員としての児童の姿は，本校が取り組んでいる児童主体の健康づくりの基盤にも大きくつながっている。

「学校文化」を引き継いだ児童は，本年度も楽しい「城東っ子夏祭り」を企画し実施した。児童の振り返りの中に他の学年を思いやる言葉が多くみられ，主体的にみんなで楽しいものをつくっていきたいという思いが溢れている。

○今年の夏祭りは，去年来ることができなかった**あおば支援学校の人たちも一緒に楽しむことができた**のでよかったです。私は企画委員会なので各ブースの見回りをしていると，**遊ぶことができないお店側の５・６年生が１～４年生に丁寧にルールを説明したり，「上手！」「惜しかったねー」と優しく声かけをしたりしていて**，城東小全員とあおば支援学校の皆さんの仲が深まった気がしました。また，今回班のリーダーをしていた**４年生は，リーダーシップを発揮して低学年を連れていっていて，頼もしいな**と思いました。次の城東っ子集会も**みんなの笑顔があふれる集会にしたい**と思いました。（６年生）

○**５・６年生がお店を用意してくれていたおかげで，楽しく遊べたんだな**と思いました。コイン落としに行ったとき，１～３年生も楽しんでいたので，**５・６年生は「低学年を楽しませることを大事に考えてくれているんだな」**と気づき，大変だったと思うけど，**ありがとうと言いたい**です。もし，**楽しませる側になったときは，今日のできごとを生かして，たくさん楽しませたい**です。（４年生）

以上，４領域を基盤とした取組が，児童主体の活動となるよう工夫を加えてきた。前述したけんこうタイムやすこやかサミットでの実践は，このような委員会活動，児童会活動での経験が大きく活きている。

（５）家庭・地域等との連携

①　ＩＣＴを活用した家庭との連携

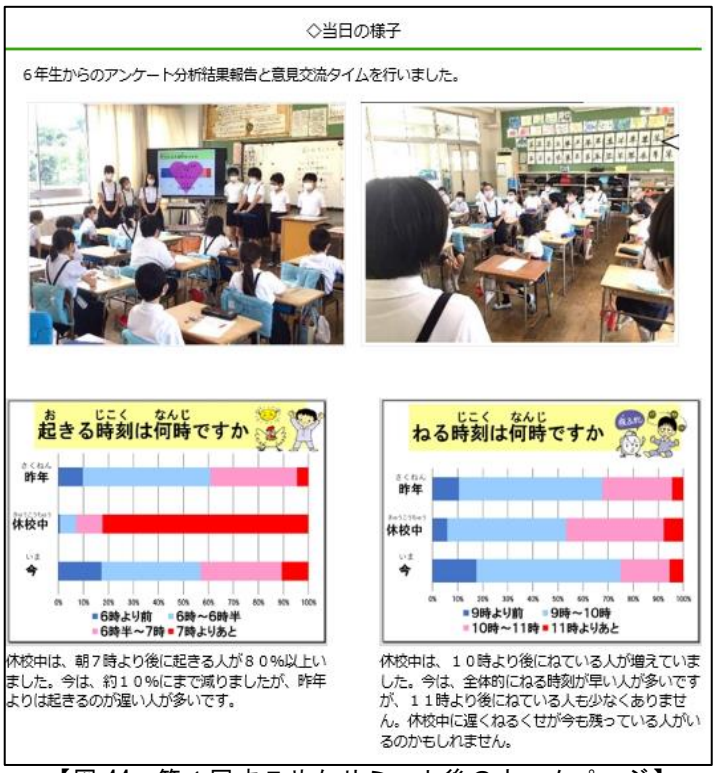
児童の健康課題は，日常生活を過ごしている家庭の健康課題でもある。昨年度から，児童主体の健康づくりを進めることで，家庭において「子どもに協力したい」「子どもと一緒に実践したい」と思えるような工夫を行ってきた。また，親子で共に考えることが継続的な実践につながると考え，健康づくりの様々な活動において，家庭との連携の機会を作ってきた。

昨年度は感染症対策の観点から，保護者に来校してもらうことが難しい時期が長かった。しかし，このような状況だからこそ親子で子どもの健康や生活について意見を伝え合い，課題意識を共有することは非常に重要であると考え，ＩＣＴを活用して，家庭との連携を図ることとした。

特に工夫したのは，すこやかサミット後に行う「親子作戦タイム」である。第１回すこやかサミット後（昨年７月）はホームページを活用した。

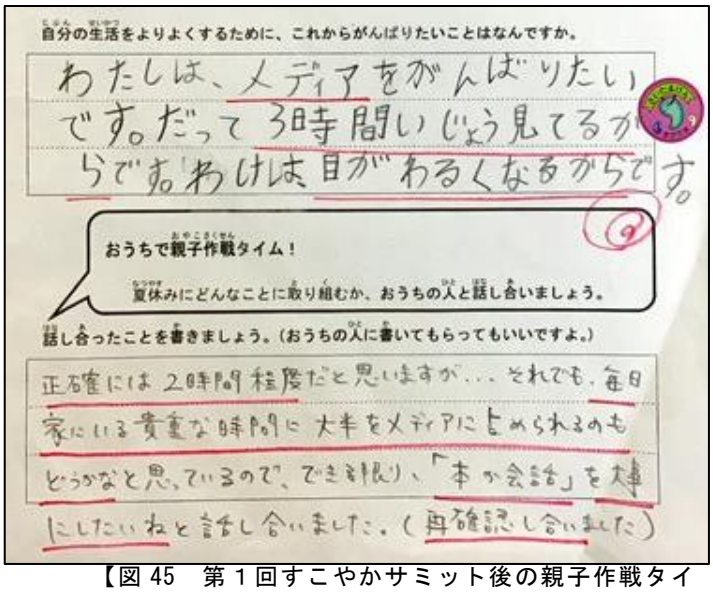
○当日６年生が発表に用いた資料をホームページ及び保健だよりに載せて周知する（図 44）。

○その資料を見ながら家庭で「親子作戦タイム」を行い，親子で一緒に話し合ったことをワークシートに記入する。



【図 44　第１回すこやかサミット後のホームページ】

このような形で実施したことで，親子で生活の様子を振り返り，課題を互いに確認することができた（図 45）。



【図 45　第１回すこやかサミット後の親子作戦タイムのワークシート（２年生）】

また，例年は，すこやかサミットに参加できない家庭の児童は，当日の親子作戦タイムを実施できない状況があったが，ＩＣＴを活用したことで，今回は全家庭で実施することができたという利点もあ

った。

第２回すこやかサミット（２月）では，タブレット端末を活用した。

○発表で用いた資料と発表の様子を録画した映像をタブレット端末に保存する（図 46）。

○児童がタブレット端末を家庭に持ち帰り，親子で一緒に見る。

○動画や資料を基に家庭で「親子作戦タイム」を行い，親子で一緒に話し合ったことをワークシートに記入する。

【図 46　タブレット端末に保存している動画】

ワークシートの記述には次のようなものがあった。

> ○子ども目線でのレポートだったからか，１年生の我が子にとってもわかりやすい内容になっていたと思います。運動不足の解消について，普段の生活で取り入れやすいものを提案されており，実践可能な現実的なものでした。「すごろくのアイディア，いいね！」「正しい姿勢を保つことが運動にもなるなら，姿勢を正すことはいいことだらけだね！」と話しました。（１年保護者）
> ○お手伝いチームの動画を見て，親子で話し合うことが大切だと感じたので，よく話し合って，まずは今できる簡単なことから取り組むことにしました。また，一つのお手伝いだと飽きてしまうということを動画で発表があったので，曜日ごとでお手伝いをしてもらうことになりました。上級生がしっかりと調べ，まとめてくれていたのでとても参考になりました。（３年保護者）

動画をもとに，しっかりと親子で会話ができていることが伺えた。これまでは，すこやかサミットに参加できなかった保護者は子どもからその様子を聞くだけだった。しかし，タブレット端末を用いて映像や資料を見ることが可能になり，具体的な話し合いをすることができるようになった。そのことが，家庭における健康づくりにつながっている。

また，本年度第１回すこやかサミット後も同様にタブレット端末を活用した。ワークシートには次のような記述が見られた。

> ○６年生がわかりやすくアンケートをまとめていてよかったです。４年生のメディアを見ている時間，使っている時間が多くてびっくりしました。留守番などをする時間が増えてきて，親がいない時によく見ているのかな？と思いました。しっかり話し合い，メディアの時間や使い方をもっと細かく決めていきたいです。（４年保護者）

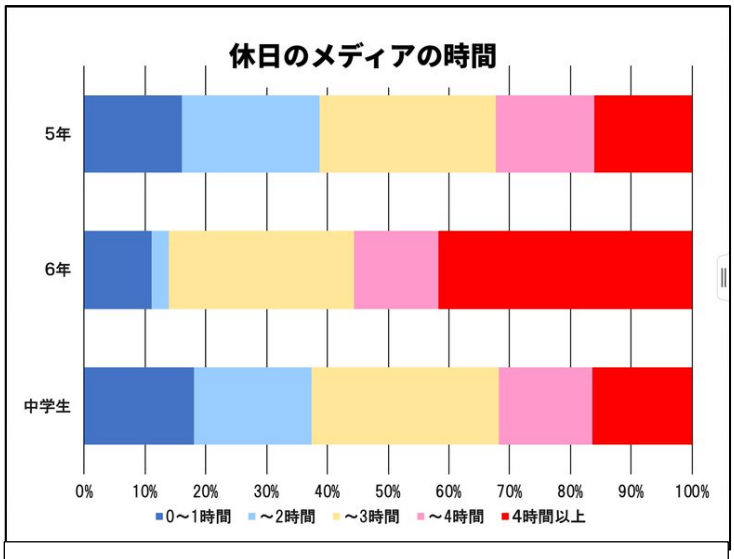
今回は，他学年の発表も見られるようにしたことで，我が子と他の児童の傾向を比較して捉え，話し合うきっかけになったことがわかった。

さらに，保護者からは，例年だと時間の都合で限られたグループ・学年の発表しか見られないが，今回はタブレット端末に映像が保存されているため，自由にどのグループの発表も見られてよかったという意見もあった。コロナ禍をきっかけに，新しい形での親子作戦タイムを実施したことで，有効な家庭との連携方法の一つを生み出すことができた。

②　身近な地域の存在　中学生との連携

昨年度，６年生が中核となってけんこうタイムを進めていたところ，「そもそも自分たちが小学生の今実践していることは，中学生になっても続いていくのか」という疑問を持った。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響から，地域の方と対面する機会をつくることは難しかったという理由もあり，児童にとって具体的に対象をイメージでき，かつ，最も身近な地域の存在である隣接の中学校の生徒との連携を図ることとなった。

まずは前述の疑問を中学生に問うために，アンケートを作成し，調査した。その結果，メディアの使い方，運動など健康づくりに配慮していることに気付くことができた（図 47）。



○休日のメディアの使用については，自分たち６年生よりも中学生の方が使っている時間が短い。
○中学生は部活や塾に行く人が多いという結果が出たので，忙しいからゲームなどで遊ぶ時間がないのではないか。
○中学生になって使い方を上手に工夫しているのではないか。
○小学生で長時間のメディア使用の癖がある人はそれをなくす努力を今からしたほうがいい。
○よい使い方やメリハリの付け方を習慣にしておかなければいけないことを，下学年のみんなにも伝えたい。

【図 47　休日のメディア使用時間の比較と分析】

このように，身近な中学生について知ったことは，児童が今の自分の生活だけではなく，将来の自分のために，今どのような生活を送るべきかという新たな視点を持つことにつながった。

アンケート実施後，ぜひ中学生に話を聞きたいという声が挙がり，インタビューも実施した。代表の児童数人で中学校へ出向き，インタビュアーとタブレット端末での録画記録担当に役割を分担し，中学２年生４人に話を聞くことができた。

事前に質問項目を考え，以下の３点を質問した。

○小学生の時，けんこうタイムやすこやかサミットでどんなことを学んだり提案したりしたか。
○当時学んだことで，今活かされていることがあるか。
○中学校で頑張っていることは何か。

中学生からは，次のような話を聞くことができた（図 48)。

○小学５年生の時，走力が課題だったので，速く走るための方法を調べたり，実践したりした。今，中学校ではサッカー部の活動を一番がんばっている。サッカーをする時に，当時調べたことが活かされているし，けがをしにくい体づくりにもつながっている。
○小学生の時，親とメディアのルールを話し合って，夜は８時以降使わないことになった。今もそれが当たり前になっていて，忙しくなってきたけど学習や睡眠時間の確保ができている。

【図 48　インタビューの様子】

６年生はこういった先輩の生の声に熱心に耳を傾けていた。そして，映像を自分たちで編集し，下学年にも第２回すこやかサミットでこのインタビューの様子を知らせた。

インタビュー後の６年生の振り返りでは，次のような記述が見られた。

○中学生のことを知って，これから先のことが少しみえてきた。
○今日のすこやかサミットで終わりではなく，中学生になっても大人になっても，今回の学びを生かして実践をし続けて健康な生活を送っていきたいです。

今回,児童にとってより身近な地域の存在である中学生との関わりを通して,今,小学校で行っている学びの意義の理解を深め,実践意欲を高めることにつながった。

３　成果と課題

（１）成果の状況

「よりよい生活に向けて変わり続ける　すこやかな城東っ子の育成」のテーマのもと，児童主体の健康づくりに取り組んできた。その成果について述べていく。

①　６年生を中核とした健康づくりの取組

昨年度，臨時休業で児童が自分の生活や心身の変化に気づきやすいという状況にあったことをきっかけとして，６年生が中核となって健康づくりを進めてきた。

以下は，第２回すこやかサミット前に，４・５年生をサポートしながら学習を進めているとき（図 49）の６年生の言葉である。

今までのけんこうタイムと違ってよかったところは，自分で考えるという点です。前までは先生たちから「ここが悪いからこんなことをしたらどう。」という視点をもらっていたけど，「自分がこんなに悪い。なおすためにこんなことをしなきゃ。」と自覚できました。自覚して生活を振り返るようになりどんな生活がいいか考えました。自分の健康課題として考えたのは，姿勢，食習慣，メディアです。……自分が４年生の時，何が重要なのか，何を伝えればいいのかが難しかったから，４・５年生にはそこを意識してもらえるように，４・５年生が伝えたいことを一緒に考えていきたいと思います。

【図 49　４年生にアドバイスをする６年生】

特にけんこうタイムやすこやかサミットに向けては，６年生の児童自身が疑問に思ったり興味を持ったり，「このように進めたい」と意欲を持ったりしたことを最大限生かしながら，学習を進めてきた。そのため，６年生にとっては自分たちが作り上げてきた，実践してきたという達成感は今まで以上にあったようである。与えられた課題ではなくて，自ら課題を設定することが，主体的な活動につながっていくことが明らかになった。

また，他の学年の児童にとっては，自分たちの憧れの６年生が提案することなので，自分のこととして捉えることができるというよさがあった。

昨年度３月の最後のけんこうタイムは，５・６年合同の時間とし，６年生から５年生への引継ぎを行った。その中で，６年生は「健康づくりのリーダーとして来年度がんばってほしい」という思いと共に一年間の反省を伝えた。５年生の感想を見ると，「話し合いでは，６年生がそのチームの課題や話題に沿ってアドバイスをくれた。」等，その思いが十分に伝わっていることが伺えた。また，５年生以下の児童についても，６年生の影響を受け主体的に健康について考え，実践する姿も見られ，一年間のみの取組から，次の年へとつながっていく健康づくりの流れができつつある。

② ４つの過程からの「児童主体の健康づくり」

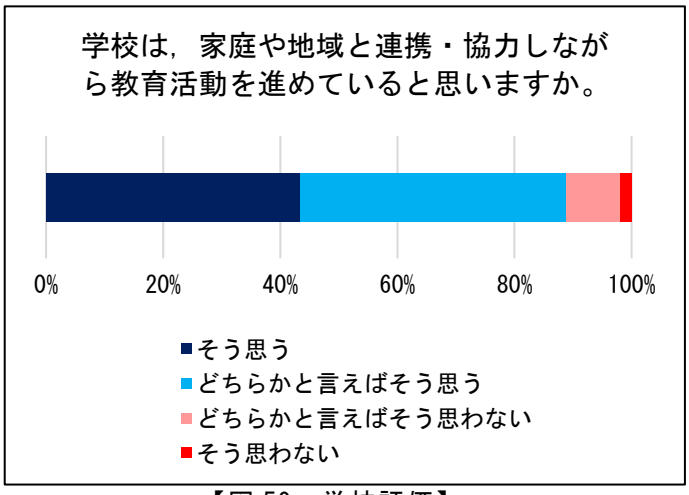
児童主体の健康づくりを推進する上で，４つの過程「課題把握」「企画・運営」「実践」「成果の自覚」を重視した。それまでも，児童が主体となって実践する健康づくりの活動は多々あったものの，活動が多数あるからこそ一つ一つの「成果の自覚」が十分にできていないと感じていた。昨年度からは，実践して終わりではなく，実践によってどう変わったのか，新たな課題は何か等を明らかにし，さらなる実践へつなげていくことを意識している。

例えば，保健委員会では，よい姿勢のための取組として「姿勢週間」を行った後，その後のクラスの様子や自分たちが実践して感じたことを委員会で共有し，次の取組「よい姿勢デー」につなげることができた。青空委員会でも，昨年度の「縦割り班対抗全員リレー」に向けた取組を活かして，今年度の取組につなげている。すこやかサミットにおいても，本年度は，昨年度第２回すこやかサミット後の振り返りから学習をスタートさせている。今後も「成果の自覚」の過程を重視することで，児童主体の健康づくりの継続につなげていきたい。

③ 家庭・地域との連携場面・方法の工夫

親子で子どもの健康や生活について意見を伝え合い，課題意識を共有することが重要であると考え，家庭・地域との連携場面・方法の工夫に力を入れた。特に，タブレット端末を活用したことで，児童が作成した資料や映像を家庭と共有しやすくなった。また，いつでもどの部分も見ることができるので，親子で取組を話し合う際に活用しやすくなり，城東小学校全体，学年の傾向と自分とを比較して，自分のよいところや課題を見つめやすくなった。さらに，地域（中学生）との連携においてもタブレット端末は活用され，中学生の生の声を６年生の手で全校に届けることができた。

このような家庭・地域との連携場面・方法の工夫が学校評価にも表れている。「学校は家庭と連携して教育活動を進めていると思いますか」という問いに対して，「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた保護者は約 90%を占めた（図 50）。



【図 50　学校評価】

（２）今後の課題と対策

① 持続可能な健康づくり体制

児童主体の健康づくりを推進してきたことで，児童の活動の内容が広がった。特に，けんこうタイムでは，６年生によるアンケートの作成や４・５年生へのサポート，中学校との連携など，新たな活動も増えた。児童が主体的に活動するほど必要

な支援も広がっていき,担任や担当だけではサポートが難しい状況が生まれてきた。今後もより充実した児童主体の健康づくりを進めていくためには，全職員で関わるシステム作りが必須である。

また，取組の方向性や目指す児童の姿を全職員で共通理解をし，振り返り，次の取組につなげていくというサイクルを見直し，持続可能な体制づくりを進めていく必要がある。

② 子どもにとって切実な課題設定の工夫

令和２年度からの取組を通して，与えられた健康課題ではなく，自らの生活を振り返り，自らの健康課題に気付き探究課題を設定したことが，主体的な活動を生み出し，健康的な生活を送る実践意欲や実践力の向上につながった。

健康づくりの目標である実践意欲や実践力の定着を図っていくためには，どのような視点で切実な健康課題を見い出していくのかが重要である。切実な健康課題設定のためには，自分や家庭だけではなく，地域や世界に視野を広げることが必要ではないだろうか。自分の生活，環境等と比較し，振り返る中で，自分の新たな健康課題に気付くことができるからである。また，このことが，自分たちの今の生活は当たり前ではないこと，健康であることのよさを実感することにもつながる。

コロナ禍で制限が多い中，自分と家庭，地域，世界とどうつながっていくか，また，学んだことをどう発信していくかを考えていかなければならない。